

下層階級の地位向上運動

かは、印度の社會問題の最大なものである。此階級は公共の井戸の水を飲むことも許されねば、優等階級に屬するものの家に入ることも出來ず、州によつては道路を使用することも許されないのがある。寺院や旅館の使用を禁ぜられ、其弟子は普通の學校に入ることも出來ない有様である。此階級のもものが觸れると、ヒンヅー教徒は汚れ、死後の冥福を祈る譯に行かなくなるからである。此憐れむべき階級に屬するものは普通の商店で物を買ふことも出來ねば、商店のある町を通過することも出來ず、牛豚同様の不潔な生活に甘んじ、疫病の培養、パチルス發生の根源を爲して居るのである。無論法律により、又は行政行爲により彼等の社會狀態改善の道は講ぜられぬではないが、社會上の風習は半平として抜き難きものがある。印度の全社會に斯る狀態で居ては印度全體の恥辱だと云ふ自覺が起らなければ此改善は困難である。然しガンヂーが此穢多階級の地位向上を絶叫した結果、ヒンヅー教の代表者から組織されてるヒンヅー・マハ・サブハなる會は、大會の決議に於て穢多階級の子弟を學校に通學せしめることを主張したのは一九二三年であつたが、此決議が果して實行されるや否やは疑問なるにせよ、良き徴候と云はねばならぬ、或る諸侯國では穢多に道路の使用を許す運動が起つた。

此穢多階級の改善向上に手を着けたのは、基督教の宣教師であるが、此階級が永く現狀に満足

すべき筈はないのであつて、民主主義の實行と共に、彼等が與へられた政權を活用すべきは當然である。彼等は社會上壓迫されて居るが、政治上は優等階級に對して平等であり、且つ數に於てもあなどり難いのであるから、彼等が解放の目的を達する方法は其團結にある。彼等の將來は興味ある問題である。印度政府は是迄一視同仁の態度をとり、彼等の地位向上に努力する所があつた。英國人の施政に謳歌すべき理由ありとすれば、此階級の中から最大の謳歌者を發見し得べきである。而してブラマンの專横を打破すべき道は、彼等が團結して政權を得るにありとし、政治運動はマドラス州に於て起つて居る。此社會改革の目的で組織された機關たる全印度社會事業家會議、國民社會會議は年々會合を催し、社會事業家の養成、社會事業の共同、穢多階級の向上、犯罪者部落の革正、社會上の弊害を除き、公共衛生に努力すること、工業上、社會上、政治上、國民生活發達の障害たるキヤースト制度を廢すること、キヤースト間の結婚を認めること、婦人の教育を奨励すること等を綱領として居る。

獨り印度に限らず、東洋共通の現象としては、婦人の壓迫された地位より甚だしきものはない。土耳其のケマル・パンヤは一令の下に婦人解放を斷行し、今日君府の街上には土耳其婦人を見受けることが珍らしくなくなつたが、印度では中流上流社會では女子は後室に押し込められ、外出

婦人の地位改善の運動

には顔を布で掩はなければならぬ。寡婦の結婚は絶対に許されないし、早婚であるから、十五歳以下の寡婦は三十万以上に達する有様である。印度では許嫁を早い時から夫の家に引取る。而して家庭に習熟させる。實際の結婚は一定の年齢に達した時に改めて行ふ。此種の早婚はタゴール、ガンヂーの良習慣として辯護する所だが、再婚が禁止されてる結果、五歳、十歳の寡婦が出来る譯である。此種の寡婦に再婚を許すべしとの運動は起つて居るが、其勢力は尙微々たるを免れない。(註一二)

八、軍制改革

英軍隊

英國の内部は平穩であつて、毎年重罪犯人の数が減少し、不用に歸する監獄を破棄する程であるから、軍隊は國內の警備用には全然不必要である。其目的は其海外に於ける防備の爲めに存在して居ると云つてよい。従て英本國內に散在せしめる必要は無く、ロンドンの西郊三十哩のオルダーシット附近に全部屯營して居る。此地點はポーツマス、ソーザンプトンの港灣に接近して居て、命令一下迅速に乗船し得る便宜があり、更に其西方五十哩ソーズベリーに至る高原は詭向の練兵場である。此軍隊は一九一二年に陸軍大臣ホルデーン氏が軍制改革を斷行した迄は、歐洲

第一流の軍隊と實戦を交へ得る程の整頓したものでは無かつた。云はば印度、極東ジブラルター、モルタ其他の領土の警備の爲めであつたのだが、其中でも印度は古來英軍の最も活躍した舞臺で高位名聲を博した軍人で印度で手柄をしないものは稀であつた。ウエリントンの如き印度で實戦の訓練を経たのである。英軍隊中歩兵聯隊の中で一個大隊は十六個年の期間海外に駐屯を命ぜられることになつて居り、其中大部分の期間は印度で費される。騎兵に至つては其聯隊が編成上の單位である爲め、全部十四個年間海外駐屯を命ぜられる。

現在印度に駐屯せる英軍隊は騎兵六個聯隊、(一個聯隊の兵員は約六百)歩兵四十五個大隊(一個大隊の兵員は九百十名)である。即ち之れのみでも四萬五千の英軍隊が印度の國內秩序維持、國境の守備に任じて居る譯だ。

印度軍

此外に印度軍がある。一八五七年に起つた印度兵の叛亂以前、印度兵は重要されたが、此事件以來印度の軍制は英軍隊と印度軍とを並用する方針を維持し、且つ砲兵は英人が主で、印度人を使用する場合は或る限定された役目に限ることとし、叛亂の場合の警戒をして居る。印度軍の編成は主要幹部將校を英人とし、印度人の將校の同數を並用せるものであつて、英人將校は士官學校卒業當時に於て、既に印度軍所屬か、本國軍所屬かを決定することになつて居る。従て前者は

印度の風土言語習慣に最も通曉せるものである譯だ。現在の兵力は騎兵二十一個聯隊、歩兵百四十個大隊の外に、航空兵、工兵、交通兵其他の機關の備はつてゐることは云ふ迄も無い。
一九二二―二三年に於ける印度の兵力は左の如くであつた。

英軍隊		印度軍隊		合計	
將校	下士卒	將校	下士卒	將校	下士卒
軍隊	四、四六七	六六、〇七八	一四四、六一七	二〇、四九〇	一三三、六五二
行政	二、三六五	五、〇八九	二五、八九三	三八、五五七	七一、九〇四
總計	六、八三二	七一、一六七	一七〇、五一〇	五九、〇四七	三〇七、五五六

此外に印度の半獨立の諸侯が持つて居る軍隊の兵數は一九二三年十月一日現在二萬七千であつた。

印度駐在の英軍の維持費は印度の國庫が支拂つて居る。其代りに、印度軍が印度以外に出征した時の費用は、總て英本國の國庫の負擔する所である。這般の大戦に於ても出征軍の費用の負擔を印度は免れた譯であるが、其代りに印度政府は前後二回、二億四千萬磅を軍事費として本國政府に獻金する手續をとつた。

前述の如く、印度軍は國內の衛戍、邊境の防備を目的とするもので、列強の精銳を對手とするもので無いから、其編成及び設備の缺陷は、對土耳其軍との戰鬥に於て完全に曝露され、印度政府は批難の標的となつた。

印度軍の要する武器其他一切の設備は、統一の必要上一切印度政府が英本國に注文するのであつたから、英國の産業はそれ助け助かつた譯である。

國防費

印度政府が最近國防費として支出した費用は次の如くである。

(單位千ルピー、時價ルピーに付一志四片)

	一九二二―二三三年	一九二三―二四年	一九二四―二五年
	(現計)	(訂正豫算)	(通過豫算)
陸軍	六四七、〇六〇	五八五、〇五二	五七八、八一〇
海軍	一三、九九九	九、八六五	九、一六八
軍事作業費	四九、〇〇〇	四四、四五五	四二、〇三八
合計	七一〇、〇五九	六三九、三七二	六三〇、〇一六

印度の軍事行政の管轄者は印度國務大臣である。大臣は印度の軍事顧問たる軍政局長の意見を

聞いて事務を見る事となつて居る。此軍政局長は普通最近までに印度軍隊にあつた陸軍中將の地位にある高官である。印度軍司令長官は直接大臣の監督の下に印度に於ける軍政を見て居り、總督府參政院の一員として印度政府の軍事政策の立案、及び之れが實行の總てをやつて居り、陸軍以外、航空軍、新たに出來た海軍の司令官であり、國境、及び衛戍の指揮權を有して居る。一言すれば印度政府に於ける陸軍大臣であつて、同時に總司令官である譯であるから、印度政府の豫算の三分の一を占めて居る此地位は總督府内にあつて、半獨立國の形をなして居る。此總司令官の地位を印度總督の下に隸屬させて、印度の行政權全部を總督の下に統一させんとしたカーゾン卿の仕事は司令長官キツチナー卿の反對で失敗に歸した。それだけ印度軍司令長官の地位は重い。慣例として印度軍出身の將校と英軍隊出身の將校が交代に任命されることになつて居る。

印度の統一は英國軍隊の力で成功した。今日印度が完全に自治權を收め、印度人の印度が實現した曉と雖も、印度の統治が、印度人の力だけで出来るか否かは、大なる疑問である。前述の如く印度には文武官は兩者全く異つた階級から出來て居る。ブラマン族は、武官であるクサトリア族を古來自家の下流に見て居た。尤も異宗教たる回教徒の天下になつても、ブラマン族は文官として其國使に任じたけれども、社會上の地位は優越せるものと信じて居たのであつた。將來議會

英人軍事
統帥權

政治が發達したとして、政權を掌握するものは文官階級、即ちブラマン階級であるとすれば、軍人階級が其下に甘んじて服従すべきかは大なる疑問である。此點が印度の議會政治の將來に一大障害をなして居る。加ふるに印度の社會にあつては前述の如く、ヒンヅー宗門と回教徒の間には不斷に騒動を起して居るが、回教徒は慍悍で、身體も強壯であるだけ、蔑げられるものは何時もヒンヅーである。是れが鎮壓の任に當る英國軍隊が居なかつたならば、ヒンヅーは安心して其生命財産を保つことは出來まいとはヒンヅー自身も明白して居る所である。此實情は印度の統治から、英人の存在を取り去る能はざる最大の原因を爲して居る譯だ。之れは恰も外人居留地の特權を回收せんとして居る支那人が、其生命財産を安然に居留地の恩恵によつて保ち得て居るのと同様である。以上は國內の治安維持であるが、今日と雖も印度の邊境の防備は一日と雖も忽諸に附し難い。是れ迄印度軍の役目は露國の軍隊の侵入に備へることであつた。クエツタを中心とした國境の防備が如何に完成して居るかは、印度軍隊の配置、網の如く張られた軍用鐵道線を見ても諒解されることだが、歐洲大戰以後此危險は去つたにしても、尙國境には無頼にして慍悍な中央亞細亞の種族が隙を伺つて豊饒な印度に侵入すべく眼を張つて居る。軍隊の志氣にして緩んだが最後國境の維持は難い。現に此種族の爲めに英人將校にして殺害された事件は常に繰返されつゝある

處である。印度人丈で此大役が出来るか否かは最大の疑問である。印度の知識階級も此軍制上の地位から英人を驅逐すべしとは叫んで居ないのである。

印度人將校養成

然し政治改革の要求と同時に、軍制改革も戦後の印度に行はれた。印度の軍隊は前述の如く、所謂知識階級とは全然別種の種族であつて、寧ろ之れを敵視して居る回教、シク宗、人種を異にして居るグルカ等であるが、彼等の印度軍隊に於ける地位は、英人の將校に比すれば、劣等であつて、一生を軍隊に托しても高い地位には上れないのであつた。然るに彼等は軍事上大功を揚げて印度の軍事上の名譽を赫々たらしめたのであるから、今少し地位を擧げて貰ひ度いとは彼等當然の要求であつた。此要求を容れて行はれた改革は次の如くである。

印度軍の將校には英國皇帝の任命したものと、總督の任命したものとの二者から成つて居る。前者はサンダーストの士官學校を出た英人の將校であつて、後者は下士官から出身した印度人將校である。所が教育に於て缺けて居る印度人將校は、如何に成績拔群なるも、戦功あるも、其地位を高めるには多大の障害があつて、其名譽心を傷けること多大であつた。そこで印度人將校養成の第一着手としてデエラ・ダンなる地に幼年學校を設立し、七十名の印度人の子弟を養成することにし、此學校の卒業生から、毎年十名宛選抜してサンダーストの陸軍士官學校に入學させ、其卒

業生を英國皇帝の任命した印度軍の將校とし、英人將校と同等立身出世の路を開かせた。

此外に軍制上多少の改革が行はれたが、取り立てて云ふ程のものはない。

(註一) 一九二一年の國勢調査報告 *The Indian Year Book 1925* に據る

(註二) 印度軍司令長官 General Sir O'moore Creagh: *Political Studies*

Sir Valentine Chitrol: *India Old and New*

Smith: *Oxford History of India*

C.M. MacMues: *The British Commonwealth and its Unsolved Problem* 等参照

(註三) モーレー・ミントー改革後の印度の立法議會議員中、選舉議員の約四割を占め、時には五割四分を占めたものは辯護士階級であつた。Chelmsford-Montague Report on Indian Constitutional Problems 政府出版九一〇九號七一七二頁

(註四) Sir Courtney Ilbert 及び Lord Meston 講演 *New Constitution of India* 第九四―五頁参照

(註五) *The War Cabinet 1917* 第十一頁

(註六) 前掲第三百三十七節第一一五―一六頁

(註七) *Government of India Act 1919* [9 & 10 Gao 5, Ch 101]

(註八) 「ダイアーク」制度運用の成績如何に就いては一九一九年の印度政府法では十年後の一九二九年に調査會を設立して調査報告せしめることになつて居るので、英國政府は一九二七年秋

の議會に調査會を設立し上下兩院の各黨派から議員を任命して實情を調査せしめることにしたが、印度のスワラヂスト派は此調査會の設立に反對を表して居る。

(註九) 一九一九年の印度政府法では此法規の適用からブルマを除外する方針であつたが、かくてはブルマは直接植民省の管轄に歸することとなり、行政上不便であるので後に至り印度政府法の下に屬する一州に加へられた。(一九二一年十月七日決定一九二二年政府出版一六七二號)

(註一〇) India Old and New 第一七一—一八三頁

(註一一) 前掲 New Constitution of India 第一七五—七六頁

(註一二) 印度の近情は印度政府が英國議會に年々提出する報告書に詳かに記されて居る。

第十章 人種差別待遇

印度人が今日英帝國內の他の部分で受けつゝある人種的偏見から來てる差別待遇は、同國民にとつて殆んど堪へ難い苦痛である。印度の國民運動をして險惡ならしめ、深刻ならしめてゐるものは、印度人が國外で受けた冷遇虐待に對する憤慨が反響的に助けて居ることは殆んど云ふを待たない。等しく此冷遇を受けて居る日本國民にとつて此印度人の境遇の如何なるものは多辯を要せずして諒解出来る問題である。南阿に旅行した邦人の旅客はホテルを拒絶され、入浴を拒絶され、散髪を拒絶され、あらゆる生活上の苦痛を経験した程であつて、白人種が印度人に對する態度は一層酷烈であるのだ。

チュートン系の人種は先天的に排外的であるかの如く思はれる。アングロ・サクソン人種が英國に侵入し、文化の進んだブリトン民族を征服した時は、十數萬の老弱男女は殺戮されたのであつた。尤も全部のブリトン人が根絶する迄殺戮されたか、少くとも幾分の女子幼弱が此殺戮から救はれたかは、明瞭でないが、大部分が殺戮されたことは歴史上顯著な事實である。次でノルマ

チュートン
人種的偏見

ン王朝となるや、被征服者たるアングロ・サクソンは前回の如く殺戮は免れたが、兩者間の差別の撤回され、兩民族の融合する迄は長年月を要した。被征服者の地位にあるブリトン人の後裔ウエールス人、愛蘭人、蘇格蘭人は今尚ほアングロ・サクソンの子孫たる英人とは人種的にも、思想上にも、宗教上にも融和せずして、其特有の性格を維持して居る。英人が阿弗利加の南端ケープタウンを併合するや、和蘭人の子孫は之れと調和するを欲せずして、其家畜を率ゐ、ヴァール河を越えて北進した。今日南阿聯合の國民運動は畢竟英人の和蘭人壓迫の歴史的産物である。白人濠洲主義の主張も亦同一の理由であつて、今日の濠洲は獨り黄色人種のみならず、白人種中の他の異つた人種をも併せて排斥して居るのである。

之れと反對に羅典系の人種に於ては斯る人種的偏見は無い。羅馬帝國の成立した當時羅馬の市民権は其被征服人種の全部に及んだ。北はスラヴ人種から、南は阿弗利加人、東は東洋人より西はブリタニア迄其勢力の及ぶ所、羅馬の市民権は惜氣も無く賦與されたのである。近世に於ては佛蘭西革命の結果、自由平等博愛の主義が確立せらるゝや、佛蘭西は其市民権を其統治範圍全體に及ぼし、其植民地人にも佛蘭西の議會に代表者を派遣せしめて居るのである。佛蘭西人にとつては其民主主義には一種しか無いのであつて、佛蘭西人に適用される自由、平等、博愛の大

印度人の
市民権

義は阿弗利加の土人にも一樣に均霑せしめ、其佛蘭西文化を普及することを以て、其國是として秋毫も怪まないものである。チュートン系と羅典系の間には斯の如き根本的相違がある。此思想上の相違は完全に英帝國に於ける印度の地位に反映して居る。

理論上、印度は英帝國を組成する一員としては平等である。其國際聯盟に於ける一員としての資格に於ては、加奈陀、濠洲と選ぶ所はない。然し印度人としての權利は英帝國に於て平等で無くして、旅行、居住、選挙の權利は或は拒絶され、或は制限されて居るのである。此矛盾は印度人の甚だしく不愉快とする所で、平等權の主張を貫徹すべく、全國一致争ひつゝまだ成功に至らな

いものである。

印度人の大多數は農民であつて、郷土を愛し、移住は其好む所でないが、英帝國の各部分を開發する必要上、其各部分に勞働者として誘引されたのであつた。今日フィジー島、西印度諸島、モリリチユース島、南阿のナタール、ケンヤ等に散布して居る五十萬の印度人は其結果である。勞働者の移住の跡を追ひ、商人、職人、其他の同國人も移住し、是等の或部分は各土着した。少數の印度人は進んで他の僚邦内にも移住し、濠洲、加奈陀に於ても印度人は居住して居る。然るに其數が多くなり、且つ土着し農業又は商業を営むやうになつて、其地方の白人種は初めて警戒

し、之れが増加と勢力を阻止すべく、排斥の方法を講じ始め、印度人の之れに對する不平は漸次高くなつて來た。ガンヂーの如きは南阿に於ける同胞の指導者として多年白人の横暴と戦ひ、之れが覺醒を促し、幾分か其壓迫を軽減することに成功したのであつた。尤も南阿の如きは自治僚邦であつて、英國議會の勢力の及ばない所であるが、直接英本國の行政權の及んで居る植民地に於ても此差別待遇あることは、印度の地位を認めて、英帝國の一員とした今日印度の輿論は英本國の矛盾を攻めない譯には行かなかつた。そこで一九二一年の帝國會議で印度の代表者は此問題を以て強硬に主張したのであつた。印度總督府は英國政府の代表者たるに過ぎないが、印度人の權利を擁護しなければ、其統治が容易でない。従てカーゾン卿の總督時代に於ても、南阿に於ける印度人の權利擁護に對しては極力努力するを惜まなかつたのであるが、一九二一年に於ける印度の統治は頗る困難であつた。印度政府の主張は英本國は勿論他の僚邦の代表者も無視する譯には行かなかつた。そこで會議は英帝國に於ける各社會は其内部の人々の組成に就ては完全な支配權を享受すべきものであるが、印度が英帝國の平等な地位を得たことと、英帝國の他の部分に正當に居住して居る英領印度人の權利が制限されて居る現状とは不合理であるから、英帝國の結束を堅める上からも上記印度人の市民權は承認さるべきことが望ましいと云ふ意見が發表された。

一九二一年の帝國會議

尤も此決議には南阿聯合は参加せず、理想政治家としてのスムツツ將軍と實際政治家としてのスムツツ將軍の立場に一大矛盾あることを表明した。

印度人の迫害されて居る僚邦は主として南阿聯合、中でもトランスヴァール、ナタールである。南阿聯合の不參加は此決議の効力を微弱ならしめた。トランスヴァールでは印度人は土地所有權を與へられないのみならず、印度人問題調査の爲めに設立された委員會はナタールの山岳地方で印度人が享受して居た所有權を剥奪すべしと報告したが、印度政府の抗議の爲め、南阿政府は其建議を採用するに至らなかつた。然し結局南阿居住の印度人の居住區域を制限する法案は南阿政府によつて提出された。

英本國の植民地たるケンヤに於ける印度人の地位も、南阿聯合に於けると同様、同國の輿論を沸騰させるに十分であつた。ケンヤに於ては印度人の數は白人よりも多い。而して此地勢、低部は森林で掩はれて居るが、高地は氣候溫和で白人の居住に適して居るから、英國政府は印度人をして高地に居住せしめることを禁止し、此地方を白人の専有にして居るので、ケンヤに於ける印度人は本國の援助を要求し、盛んに抗議しつゝあつた。印度の立法會議は總督府を督促して強硬な態度を執らしめる決議を通過し、參議院も亦其有力者を總督に會見せしめて、同様の要求を

ケンヤ植民地の印度人

印度人の
居住禁止

したのである。然し其抗議も本國政府を動かす能はずして、ケンヤの高地は白人に保留されたのである。印度の輿論の失望察するに余りありて、英皇太子が印度に上陸するや、非協同派はポイコットを計畫し、其不平を洩らした。

ケンヤ植民地は以前英領東アフリカと稱せられた地方であつて、面積廿四萬平方哩、海岸のモンバサから世界最大の湖水たるヴィクトリア・ニアンザ湖のキシユムに至り、南方はタンガニカ、北はソマリランド、アビシニア、スーダンを境として居り、全面積中十九萬五千平方哩は四千呎以下の低地であるが、四五萬平方哩の地域は五千呎以上の高地である。此地方は印度と接近しての關係上、早くより印度人との交通があり、印度人が白人に先ちて土着開墾し、鐵道も印度人の勞力で出来上つた程であるが、其居住區域は海岸一帯に限られて居た。一八九〇年に此地方が英國の保護國となつてから、始めて文明的設備が出来、暗黒アフリカの文化的侵入が開始されたのであつて、ウガンダ、タンガニカと共に綿花栽培其他の開墾上、英國政府が重要視して居る所である。而して『印度人の利害の面倒を見ない譯ではないが、歐洲人の利害を第一に見る』ことは英國政府の大方針であるのだ。(註一)一九二〇年五月廿一日植民大臣としてミルナー卿はケンヤの統治方針を發表したが、

- (一) 印度人は特別の選舉資格の下に立法會議及び市會に代表者を送り得ること
- (二) 植民地の移民法規には印度人に對する不公平な差別待遇を爲さざること
- (三) 高地は白人種の爲めに保留すること、其他の地域の農業地は印度人の爲めに保存すること
- (四) 人種差別居住區域設定の原則は住宅區域に設け、且つ出来得るならば商業區域にも設けること

英國政府
の
護歩の
程

を固執した。然し國際聯盟の委任統治の地域たる南隣の前獨逸領たるタンガニカに於ては人種の差別待遇は許されない。英國政府は白人と印度人とを區別することは出来ないものであるから、獨りケンヤ植民地のみ之れを爲すことの不合理は云ふまでも無い。そこで植民省もケンヤに於ける白人及び印度人の代表者に加ふるに、印度中央議會の代表者の意見を聞き、更に知事の意見を徴し、前述の如く高地を白人の居住區域とする制限を維持した以外多少の護歩を爲すの已むなきに至つた。

- (一) ケンヤの立法部に白人十一名に對し、印度人は五名を選出すること(白人の人口一萬、印度人二萬であるから、尙不公平は免れない)
- (二) 白人印度人の間に移民法に差別を設けざること

(三)居住區域の制限を撤廢し、唯之れを土人丈けに適用すること
 印度人自身キヤーストの下に人種の平等を認めず、優等人種としてブラマン族が他を排斥し、
 下層社會を冷遇し、婦人の地位を低める等、社會改良には一も耳を藉さないで置き乍ら、他に向
 つては平等を要求する權利ありやとは英人の反對する理由である。

スムツ
 將軍の人
 種的意見

斯る形勢の下にあつて、一九二三年の帝國會議に印度の代表者が此差別待遇の不都合を鳴らさ
 ずして、沈黙を維持することは、到底不可能であつた。尤も此問題に對して受身の地位にある英
 政府は、其作製した議事日程中には此題目を挿入しなかつたのであるが、印度代表は特に機會を
 要求し、或は印度人のイザツト(名譽の意味)から、或は印度統治上から、或は人權上から盛ん
 に主張する處があつた。是れに對して英本國の代表者を始め、各答辯する處があつたが、スムツ
 ツ將軍の南阿政府の立場に對する聲明は最も實際的である。彼は印度人に對する南阿政府の態度
 は人種的差別に非ざる所以を辯じ曰く、(註二)

南阿の有識者は印度人が異人種であるとか又は其他の根據で吾人よりも劣等だと云ふ態度を
 執つて居るのではない。又文明の程度の優劣でもない。吾々から全然異つた標準と考へを持つ
 てる人民からの經濟的競争を受ける危険を防止することにある。

阿弗利加大陸に居住する一億の黒人の社會に少數の白人の社會は歐洲文明の先驅者として土
 着したのだが、南阿及び中央阿弗利加に於ける此少數の先驅者が歐洲文明の維持の爲めにあら
 ゆる奮闘をしたからとて、之れを批難するには當るまい。彼等は現在既に或程度の難問題に圍繞
 されて居る地位を脅すべき何ものをも重大視するのは已むを得ない。南阿には六百萬以上の土
 人が居る。白人の人口は百五十萬であつて、印度人の數は十六萬、此大部分は其一州たるナタ
 ールに居住して居る。ナタールに於ては印度人は多數で、白人は少數である。所で選舉法は如何
 と云ふに、希望峯植民地では財産、所得、文字の制限選舉であつて、印度人は白人同等の選舉權を
 有し、兩者間に差別はない。南阿聯合の他の三州に於ては男子普通選舉制が行はれて居る。此
 中ツランスヴァール及びオレンヂ自由國にあつては、此制度は英國政府が決定したのである。
 プーア戦争後憲法が施行された時、此憲法中に此男子普通選舉法の規定があつて今日に至つて居る。
 此條項は民主主義の今日變更されないのである。將來は更に普選の時代が來ないとも限らな
 い。そこで今若し印度人に此權利を許すとしたらどうなるか。其結果はナタールでは印度人
 が多數の投票を占めることになる。それよりも困難なことは南阿聯合には黒人が多數を占めて
 居るが、今平等に男子普選を許すならば、南阿は忽ちにして黒人の獨舞臺となる譯だ。印度人

と阿弗利加人とを區別することは出来ない。論理の向ふ處結局は茲まで徹底しなければならぬが、其結果たるや、二百年來吾人が築き上げた地位は放棄せねばならぬ事となる。であるから南阿として到底出来ない相談である。印度としては體面の問題である。南阿にとつては生存の問題で、どんな政府も印度の見方に賛成を表されないのである。

スムツツ將軍は、英帝國の市民權獲得は同時に選舉權獲得の理由とはならないと主張した。

愛蘭代表外務大臣フイツゼラルドの宣言は傾聴に値する。氏は印度人差別問題を二種に分ち立論するの要ありとし曰く、

・ 僚邦に於ける印度人に對しては獨立國たる關係上、各僚邦が自由に處分すべきものである。委任統治の地域、保護領では英國政府の支配する所であるから、愛蘭は責任はない。若し愛蘭も此事柄について責任があつたとすれば、人種的差別の實際については嚴重に抗議しなければならぬ。アングロ・サクソンならぬ吾人は過去に於て劣等人種として取扱はれ、随分久しき間辛苦を味つたものである。今印度代表は其他の吾々代表と同等の地位をもつて居ない。彼等には眞の代表資格はなく、獨立せる印度政府から派遣されて居ないのである。余にして若し印度人なりせば、印度以外其待遇問題に對する不平は、吾人の他のものが到達した自治の程度に

印度が達して居ない事實から起つて居ることを認めるであらう。保護領其他に於ける印度人の地位如何に對する責任者は、同時に印度の政治に對して責任ある政府であるからして、印度人と其他の英國市民との間に區別を設けることは不正義なりと考へられる。此人種差別問題の解決を如何にすべきかは印度人が相互的な條項を設けて、平等の取引を爲す地位に進むことにある。即ち革命的方法をさけて、進化的方法によつて全速力でもつて、自治政府の形體を作り上げることにある。吾人國民は衷心より人種劣等の取扱に對する抗議、其國民の自由に關する感情に對して同情するを惜まない。

(註一) The British Commonwealth and its unsolved Problems 第一二八—一四五頁

(註二) 一九二三年帝國會議議事要録、政府出版一九八七號

第十一章 英帝國の經濟的結合

一、貿易は英國の生命

英國産業
の立場

英國産業の發展は益々輸出貿易による所多く、輸入原料に倚る所多大であり、是等の原料を購買し得る英國の能力は主として海外に輸出貿易を維持し得る能力に倚る。而して産業發展の總ての時期を通じ、益々増加せる人口を維持せんとするには、これと相對して貿易の發達を伴はなければならぬ。

今日我輸出貿易は尙遙かに戦前の分量以下にあり、此減少の度は時に消長はあるが、數十ヶ月の久しきに亘り繼續し、長期に亘り、且つ大仕場の失業の上に現はれて居り、其苦境は誠に名狀し難きものがある。其輸出貿易の減少を回復し、更に増加し得るならば、不斷の職業を維持回復し得ることは明白な事實である。我人口は増加し、同時に生産の方法の能率も著しく回復されたから、貿易量を戦前よりも一層増加することが職業維持に必要である。従て英國に取つ

ての第一の問題は市場即ち舊市場の維持、新市場開發の問題である。世界の貿易は相倚相助の關係にあるから、歐洲の状態が平常に復することは重要問題ではあるが、先づ第一に最も最負目に見た所で、事實上歐洲諸國の生産力購買力の完全に回復することは徐々であると見ねばならない。第二には歐洲の産業の能力は戦時並に戦後大増加を來して居るから、従て英國は生産力上競争激甚を免れないと云ふことである。是等の事實は吾人をして新市場の開發と云ふことに重きを置かしめる。

以上は一九二三年の帝國經濟會議の主宰者として通商院總裁サー・フィリップ・ロイド・グリーンム（後にカンリツフ・リスターと改名す）が開會の辭として、英國の立場を卒直に述べたものであつた。戦時から繼續した聯立内閣は戦後經營の大方針として、英帝國の發展を顧み無かつた譯ではない。然し前章に述べたやうな事情で、首相ロイド・ジョージ氏は英國の内政問題の解決は歐洲の戦後の問題を片付けることにありとし、全身の精力をそれに傾倒したが、露國との問題、及び賠償問題の如き難問題を、英國の利益を中心として解決し去るべく、歐洲の政治状態はあまりに複雑して居たが爲めに、其事業は失敗に歸したのであつた。一九二二年四月に行はれたゼノア會議の如きは、歐洲の經濟的復興を急速に計ることの失敗を明確ならしめたものであつた。保

聯立内閣
の對外策
の失敗

帝國經濟
會議召集
の目的

守黨内閣成立して首相ボナー・ロー氏が此英帝國經濟會議を召集したことは英國の經濟的復興、若くは發展を計るの道は其廣大無邊なる帝國の資源を開發して生産を起し、英國の市場を見出し、英國の資本を投下し、其過剩人口を移植し、それによつて産業を回復し、失業問題、勞働問題を緩和するにありとの思想が勝を制した證據であつた。會議は即ち如何にすれば其方法を認め、實行に當つて帝國各區域の一致點を見出し得るかを議するにあつた。今此會議の狀況及び結果を叙述する以前に、英帝國の經濟關係の變遷を説明する必要がある。

英帝國の資源は、北米合衆國の夫れに比し秋毫も劣る所なしとは英國及び僚邦の政治家、實業家の唱道し、且つ確信する所である。全く其の通りであるが、兩者間の一大相違點は、合衆國にあつては一個の聯絡せる領土であつて、英帝國にあつては、世界に其範圍の散布されて居ることであつて、前者にあつては統一は容易であり、後者にあつてはそれを困難とする。

合衆國が英國の羈絆を離れ獨立した時は、大西洋沿岸に沿ふた十三個の植民地であつた。それは政治的にも、經濟的にも別個の單位であつたが、憲法制定に於て政治的にも經濟的にも統一された一個の單位となり、關稅を一區域とし、保護政策を採用したのであつた。十三州以外の領土は住民が漸次移住するに従つて、最初は地方テリトリの名稱の下に、中央政府の管轄に歸し、其發展と共

英米の資
源比較

に十三州と同様の権限を與へて廣汎なる行政權を行使させたが、然し關稅權は中央政府の下に收めて居た。州が増加して其範圍全體を包含するに及んで、全國は擧げて一個の廣大なる關稅區域となり、曩きに開發した東部地方の工業製造品は高率な關稅制度の庇護の下に、後れて開發された農業牧畜鑛山の地方に容易に其販路を開拓し得たのであつた。

聯邦の經濟權獨立

英國國に於ては此點が相違して居る。英本國は植民地に自治權を許した當時に於て、關稅の權利をも與へ、其地方の政治的、經濟的開發の仕事も全部植民地の住民をして自由に當らしめたのであるから、今日英國全體を統一せる經濟的單位とする事は容易のことで無く、幾多の障害が起る譯である。合衆國と雖も異つた利害關係の立場にあつた南部諸州の綿花栽培地方と商業工業金融を以て立つた東部との利害の衝突の爲めには、數年に亘る内亂を経ねばならなかつたし、今日に於ても中央部西部南部の農業地方と東部との間は此根本の利害關係から政治的に異つた色彩を發揮し、兩者は常に争つて居るが、此間に地理的境界を爲す自然の障害が無い爲めに分裂は起り得ない。それに反して各僚邦は經濟的にも夙に英本國より獨立して關稅上、經濟的單位として立つ可く合衆國同様、夙に保護政策を採用し、自國の農業のみならず、工業の發達の爲めに保護關稅政策を採用し、外國品の競争によつて自國の工業の發達の阻止されることを防止すると共に

英國品の輸入に對してすら其工業の打撃されることを防止するに全力を惜まないものであるから、經濟的に英本國の要求する所と僚邦の要求する所は必ずしも一致し難きものがあるのである。此點は英帝國の前途に横はる最大の障害である。而して斯る障害あるにも拘はらず、如何にして經濟的に英帝國を結合し得べきかの問題は久しき間英帝國の政治家の解決を要求する所のものであつた。

英本國の植民地庇護

英國は植民地の發展に冷淡であつたとは普通信じられて居る處であるが、決して無頓着たるを許さなかつた。合衆國獨立後、英國政府は合衆國に居た英人にして共和國の治下に歸屬することを好まなかつたもの爲めに、加奈陀の中部オントリオに植民計畫を立て土地の測量、都市の建設、麥粉工場の建築其他の爲めに三百萬磅を支出した。之れは英國政府の收入千二百萬磅に過ぎなかつた當時に於て大支出であつた。運河の開鑿、鐵道の敷設に對しても英國政府は莫大の補助金を支出して居る。其他の植民地に對しても程度の差こそあれ、同様の支出は免かれ無かつた。植民地が英國に於て不人望であつた原因は、其維持、發達の爲めに英國の國庫は毎年多額の支出を餘儀なくされた爲めであつた。其後植民地發達し、財政上本國の補助を要さなくなり、本國の財政豊富となつてからは、事情は一變し、植民地に對する盛んな投資となり、又財政の援助とな

つた。プーア戦争後反抗者であつたプーア人及び英國臣民に對し六百九十萬磅の賠償又は國籍變更の立除料を與へ、新政府に三千五百萬磅利子三分の資本を貸與し、鐵道建設費に充てしめた。其他土地開發會社の財政難に際し之れを買収し鐵道建設の費用を支出した。

即ち斯くの如く好むと好まざるとを問はず、植民地は本國より後援され、本國の優勢な艦隊によつて防禦され、本國の軍隊によつて秩序を維持された爲め、何等の不安を感ずること無く、且つ他の小國の如く防備費の負擔を免れ、其經濟的發達を爲し遂げ得たのである。

植民地の發達を迅速ならしめたものに二個の事實がある。第一は移住であつた。英本國が人口の過多に苦しみ、國民の生活が困難となつた時、其過剩人口は容易にハケ口を植民地に見出し得たのであつた。其第二は資本である。英本國は産業革命の結果他の列強に先んじ、富強となり、莫大の資本を蓄積し得たのであるが、此資本は海外投資となつて容易に消化された。尤も此人口と資本とは必ずしも英帝國內に向けられた譯でなくして新開國中最も開發された合衆國に向けられたのであつた。合衆國最初の鐵道の如きは英國の技師により建設され、英國製の軌條を使用された。大陸を横斷した最初の鐵道たるユニオン・パシフィックは一八六九年に竣工したものであるが、之れすら英國製の軌條を使用したのであつた。大戰當時、英國民の手にあつた米國の有

植民地發達の二要素

價證券は十一億磅に達したと稱されて居る。若し英國の政治家が英帝國の開發と云ふ事に重きを置いて、此移住民と資本とを今少しく自國內に向けたならば、英帝國の開發はもつと迅速に出来たのであつたと思はれるが、海外に出た英國民中の健全分子は多く米國人となり、其資本も今日合衆國の富強を助けたに過ぎなかつたのであつた。

然し英國の移民及び資本も自由に英帝國の開發に向けられたのである。此移民は思想上に於ても、生活上に於ても英國民であつて、本國との結合の楔となり、其生産品の需要者となり貿易の發展を助けて居る。英國が世界金融市場の中心であることは、今更茲に論述する迄もない事實であるが、此市場の大得意先は米國を除いては植民地其他の帝國領土であつた。航路の開拓、鐵道電線の敷設、鑛山の採掘、土地の開墾、灌漑工事の建築、家畜の飼養、市街の建設改良、水道の敷設、衛生設備の完成其他文明的施設に要するものは悉く資本の力ならざるは無く、之れを得ざるが爲めに日本支那其他の列國も困難して居るが、英帝國の植民地は少しも此困難に遭遇することゝを要せなかつた。英國の市場は自由は是等の要求に應じて尙餘りあるものがあつたのである。

株式會社制度の發達

尙ほ株式會社の制度が發達し、一八五五年に從來の無限責任より有限責任となり、一八六二年には此制度が銀行業にも及ぼされたことは英帝國の開發を容易にしたと云はれて居る。從來株主

たるものは其會社の事業に對し無限の責任を負擔して居たが、此制度の下にあつては植民地開發の如き冒險事業に資金を投ずることは、少數の資本家以外には不可能であつた。此制度の改善と英國民の貯蓄心の旺盛なるとは相俟つて、是等冒險的の設立を容易にしたのであつて、濠洲の羊毛、南阿の金鑛、ダイヤモンド鑛、加奈陀の木材、ニゲリア、馬來半島の錫鑛、埃及、セイロン等の農業の發展は之れが爲めに成功を見たのであつた。

最初は英國政府が此金融市場の得意先として公債を發行して居たが、印度政府及び自治植民地の如き其領土開發の爲めに要する各種の事業資金をロンドン市場に求め、他の國家又は民間の事業會社では到底得られない低廉な利子の公債募集に成功して居た。此低廉な資本を獲得することによつて植民地は毎年千萬磅の節約を爲し得たと同様の結果を得たとはいへず、一專問家の論述した所である。(註一)ロンドン市場が植民地の發展を助けた程度は一九〇九年末までに十五億五千四百萬磅の巨額が印度及び植民地に投下されて居た事實で明瞭である。印度政府は平均三分二厘一毛、植民地及び地方政府は三分七厘一毛、植民地の鐵道は四分、印度の鐵道は三分八厘七毛の利子を拂ふに過ぎなかつた。戰前ロンドン市場が海外に投資した額は年々四千萬磅に達したと稱されて居るが、此大部分は英帝國內に對する投資であつて、此資本によつて、英帝國は急激なる發達を

植民地發行の公債

遂げたのである。英帝國以外の文明國、未開國にして此ロンドン市場の門戸をたゞき、公債の募集に高率を拂ふの意志あつて、尙ほ拒絶されるのに比較して、植民地、印度は幸福の地位にあるのであつて、一面から見れば政治的に獨立して居る植民地、印度は、經濟的には尙ロンドン市場の金融によつて支配されて居ると云ふも不可なく、此事實は英帝國の結合に對する重大な要素を爲して居るものである。

斯くの如く國防上の安然、本國の後援、本國其他よりの移民による人口の増加、豊富にして自由なる資本の投下等の結果、植民地、印度の經濟的發達をして極めて迅速ならしめ、貿易の躍進を實現せしめたのであつた。過去四十一年間(一八八〇—一九二一年)濠洲の貿易高は約六倍、加奈陀は十七倍半、南阿は七倍半、新西蘭は五倍八割六分、總體で九倍の増加を示して居る。

植民地の貿易發達表(單位百萬磅)

年次	濠洲	加奈陀	南阿	新西蘭	總計
一八八〇年	五〇	二九	一八	一五	一一二
一九〇一年	九二	七一	五五	二八	二四六

植民地の發達

一九二二年 二九六 五一〇 一三二二 八八 一、〇二六

列強植民地の産業保護策

經濟學上、自由貿易が是か非か、保護貿易が是か非かを研究することは本書の範圍外に屬する。然し一事の確實なことは、若し列強を擧げて自由貿易主義を採用したと假定したならば、此主義の爲めに最大の効果を收め得たものは列強より産業上最も進歩して居た英國であつたことである。進歩せる技術、豊富な資本を擁して居た英國の工業は今日尙獨占的地歩を占めて居たに相違なく、合衆國、獨逸、佛蘭西等の産業上の後進國は、久しき間原料の供給國、農業國として満足するの外無かつたに相違ない。然し乍ら是等諸國の政治家は熟考の結果、英國の經濟學者、政治家の説を斥けて、其幼稚な工業に保護を與へて、之れを發達せしめるのみならず、其農業に對しても保護を加ふる爲めに高率な關稅を外國品に賦課する政策を採用實行して、其工業を發達せしめるに成功し、英國の工業品の侵入を防止したのであつた。英國工業の發達が之れが爲めに打撃を蒙つたのは當然であつて、英國の貿易は之れが爲めに其増加率は著しく減少せざるを得なかつたのみならず、其國內の基礎的工業たる製鐵工業の如きは獨逸、白耳義の工業の爲めに國內に於ても打撃を蒙ることを防ぎ得ない現象を呈するに至つた。殊に悲惨を極めたのは農業牧畜業であつて、果樹、蔬菜、ミルク、バター、チーズ等の副業以外は合衆國、加奈陀、濠洲、アルゼンチン、丁抹

等の輸入品の爲めに大打撃を蒙り、英國民日常の食料を外國の供給にまつに至つた結果は、農村の破壊となり、戰時食料の大窮乏を見たことは周知の事實である。一八七〇年以後、獨逸、佛蘭西、北米合衆國は高率の關稅を實施して國內の工業を保護し、英國の製造品を驅逐した。一八七八年及び一九〇三年の獨逸の關稅率、一八九二年の佛蘭西の關稅率、一八九〇年のマツキンレー關稅率、一八九七年のデイングレー關稅率の如きはそれだ。此結果であるか、或は其他の原因にあるか、英國の貿易の發達の割合は此三國に比し減少せざるを得ざることとなつた。左表は之れを示して居る。

年次	聯合王國	獨逸	合衆國
一八九〇	二六三	一六六	一七六
一九〇〇	二九一	二三〇	三〇二
一九〇五	三二九	二八一	三一〇
一九一〇	四三〇	三六七	三五六
一九二二	四八七	四四〇	四五二

即ち此期間に英國の貿易は一倍八割五分の増加であつたが、獨逸は二倍六割七分の増加、合衆國は二倍五割六分の増加であつて、今後の趨勢は益々英國の商品、工業が後進國の爲めに壓迫されつゝあることを示し、自由貿易主義許りで、其貿易上の地位を維持することに對する不安は漸く政治經濟社會を襲ふて居たのであつた。

尤も實際的である英國人は一個の原理原則に囚はれる民族ではない。必要の前には此原理原則をも棚に上げて置くを辭せない國民である。十九世紀の中葉自然放任主義の旺盛を極めた時に於てすら、此主義と反對な政策も實行されて居た。英國は植民地に自治を與へた後と雖も、之れに財政上の援助を與へ、其發達を奨勵し、領土擴張の慾望を放棄した後と雖も尙ほ其領土の擴張を見るに至つた。殊に自由貿易主義と最も矛盾した政策は自由貿易主義濫觴の地たるランカシアの織維工業を保護する爲めに、印度に起りつゝあつた織物生産品に對し、其輸入税と同率な消費税を課し、優秀な英國品をして自由の競争を爲さしめ、印度の織維工業の發達を阻止する方針をとつた事であつた。此政策は印度の輿論が覺醒して其不合理を絶叫した迄は實行された所であつて、一九一七年迄繼續されて居たのであつた。即ちランカシアの利益の爲めに久しき間印度の統治は行はれて居たのであつた。

然し兎も角も英國にとつては貿易の發達は其生命である。歐洲及び米國の大得意先が英國品を拒絶せる以上は、英國の實業家及び政治家は已むを得ず、他の方面に此販路を見出さざるを得なかつた。

二、帝國經濟會議に於ける英國の提案

自由貿易主義、即ち自國の産業を保護する目的を以て關稅率を定めず、關稅率の制定の目的は單に收入を目的とする場合に限定されるべきものと云ふ議論は、十九世紀を通じ英國の政治を支配して居た。又此自由主義、自由放任主義、自由貿易主義の盛んであつた時代は、英國の黄金時代であつて、自由主義即ち繁榮を意味し、此思想は國民の思想に牢乎たる根底を有して居る。

然し乍ら獨逸及び米國品の爲めに英國品が種々なる事情の下に驅逐され、各種の工場が其經營難を訴へ始めた時、各地よりの領事の報告が外國品の優秀な點、少くとも其市場の嗜好に適合する事實を摘發し始めた時に、英國の輿論は之れに耳を傾けざるを得なくなつた。のみならず英國の産業は新らしき市場を開拓するの必要に迫られたのであつた。同様の理由は加奈陀、濠洲、新西蘭の自治植民地にも存して居た。前記の統計の示すが如く、是等植民地の産業の偉大なる發展

英帝國內
特惠關稅
率の實施

は直ちに市場の開發を要求したのであるが、其主要生産品たる農産物に對しては、獨佛米の諸國が高率の關稅率を制定した後に於ては、英國の市場が彼等の最大の顧客であつた。尤も世界の經濟關係は複雑であつて、如奈陀の如きは其輸出の大部分は英國である代りに、輸入は主として合衆國よりし、印度の如きは種々な關係上、輸入を英國より仰ぎ、輸出は獨逸日本其他の諸國にするものがあるけれども、大體に於て文化、嗜好を同ふして植民地の發達することは、英國の製造品に對する需要を増加せしめ、英國の工場を繁忙ならしめることになる譯であつた。即ち自由貿易なる單純な理解を離れて英帝國を中心として政治經濟の問題を考慮すべしとの主張が十九世紀の後四半期に於て起つたのは斯る事情からであつた。特惠關稅なる制度は此解決の方法として案出されたものである。

此制度によると、英國なり、植民地なりが、其輸入品に對し關稅を課した場合に、植民地又は英國からの輸入品に對しては特に低率の關稅を賦課するのであつて、此割引された稅額丈は、其生産者に對する保護となり、奨勵となるから、英帝國間の貿易を増進する結果となるのである。普通特惠關稅率は三割三分三厘割引の場合が多い。何故に全額の廢止を爲さないかと云へば、一方に於ては關稅收入を得る爲めであつた。此制度は最初英國に於て着手され、後植民地も之れに

特惠關稅の效果

應じて、英國品に對し此制度を實行し、兩者間の貿易増進を計ることとなつた。

濠洲聯邦の首相ブルース氏が帝國經濟會議で述べた處によると(註二)一九二一三年度濠洲が英國の製造品に對し與へた特惠關稅の全額は七、六〇〇、〇〇〇磅の巨額に達した。全部の僚邦が英本國品に對し與へた特惠關稅額は千萬乃至千百萬磅に達した。是れ丈は英國製造業者の利益であるとはブルース氏の論ずる所で、英國の特惠關稅が植民地の産業を利益した事は之れ以上の額に上ることと思はれる。ブルース氏は更に濠洲の特惠關稅が英國の貿易を増進したことを實例を以て示して曰く、

一八八二年には英國より濠洲への輸入は二〇、九八四、一六二磅で、一九〇六年には二〇、二二八、八三六磅であつた。二十四年間貿易状態は殆んど停止して居た。(一九〇五年の一六、九九一、〇〇九磅と比較すれば寧ろ減少)此期間に濠洲の全輸入は停止で無くして著しく増加した。一八八〇年に於ける濠洲の輸入總計は二四、六二二、〇〇〇磅であつたが、一九〇六年には四四、七四五、〇〇〇磅に増加して居る。

一九〇六年に特惠關稅制度が創始されてから英國よりの輸入品は一九〇六年の二〇、二二八、八三六磅から、一九一三年には三四、四七一、二六九磅に増加した。此年に英國品は全輸入額の

六割三分であつた。戦後一九二〇年には濠洲の關稅率改正行はれ、英國品に對し特惠の範圍が擴張され、其結果英國品の輸入率は一九二〇—二一年度には六割四分となつた。

印度愛蘭は特惠關稅を行はす

尤も此特惠關稅制度の實施は普通通商條約締結國間に行はれる協定的のものではない。即ち外交的交渉が英本國と植民地との間、又は植民地間に行はれ「取れ而して與へよ」的に算盤勘定で行はれたものではない。然し「水心あれば魚心」で、獨り共通の利害關係あるに止まらず、最初植民地に對して英本國の實行した制度はやがて植民地に反響して、英國の製造品に對し特に便宜を講ずることとなつたのである。尤も此特惠關稅の制度は濠洲、加奈陀、新西蘭、南阿等其利益に浴するのであつて、植民地ならざる印度、愛蘭の如きは全然利害關係をもつて居ないことは注意を要する。印度の貿易關係は前者と全然相違するものがあることは印度の代表者シー・エー・インズ氏が經濟會議に於て陳述した所で明瞭である。同氏は曰く、

一九二一年に新西蘭の輸出の八割六分、南阿の輸出の七割六分、濠洲の半分以上は聯合王國に行つたが、印度は其輸出の二割を送つたに過ぎない。之れに對して印度は英國最上の得意先であつて、過去三年間英國よりの輸入は平均一億二千九百萬磅であつて、此額は加奈陀、濠洲、南阿三大僚邦の輸入の總計以上に達して居る。此大事實たる、多年英國の資本が印度に投下

され、貿易、海運、銀行關係の久しきに亘る地盤あり、印度市場の要求に對し、周密なる調査研究の結果である。其輸入品の主要なものは製造品であつて、困難に遭遇したに拘はらず、英國の製造業者は印度市場に於て戦前占め得た地位を回復した。戦前印度が買つた製造品の七割六分の供給は英國の供給する處であつたが、一九二一年三月に至る一個年間で英國品の割合は七割三分であつた。

因みに濠洲、新西蘭政府の注文は獨り英國のみならず、歐洲全體の市場で選擇されるが、印度政府及び軍隊の需要は印度内で求め得ざるものは總て英國品に限られて居たことは、英國市場が印度に對し有して居る特權であつた。而して目下盛んに起されつゝある鐵道、灌溉等の土木工事に要する材料は巨額に達するのであるが、之れが英國市場を露ほして居ることに疑問はない。

尤も此特惠關稅制度は英本國も、植民地も、政治上、經濟上獨立して居る關係上、一地方が他の地方に向つて、其商品に對し割引を要求するの權利なく、又英本國が自由貿易の主義を棄てず、關稅賦課を國庫の收入の目的以外に及ぼさないと云ふ信條に拘束されて居た爲めに、其範圍は狭少なるを免れなかつた。例へば穀物の如きは經濟會議に於て加奈陀の代表者の指摘した如く、此國丈けで英國の需要する所を供給して餘りあるのであるが、今日に至る迄英國は穀物に課稅する

自由貿易主義と特惠關稅の制限

ことは、貧民の負擔を増す所以なりとして躊躇して居る。尤も英帝國結合の大理想を鼓吹した大政治家ジョセフ・チャンバレン氏は一九〇三年に小麥に對して小額の課税を爲し、國內の農業を保護すると同時に、植民地生産品に特惠關税を施行するの議を提唱したが、保守黨内閣内に尙ほ自由貿易論者あつた爲めに辭職を餘儀なくされ、繼で政權は自由黨の手に移り、歐洲開戦に及んだ。個人主義を放棄した労働黨に於てすら、マクドナルド、スノーデンの如き正統派に屬する政治家は尙ほ此自由貿易主義を捨て得ないのであつて、政權が國民にある英國の如き國情では、麵粉の騰貴の如き、民衆の偏見に訴へる如き政策は其眞理利害の如何を問はず、不人望であり、從て投票獲得と云ふ民主政治上の根本的弱點がある爲めに、チャンバレン氏の如き大政治家でなければ敢てし得なかつた所である。それすら失敗に歸し、保守黨は久しく失脚したのであつた。一九二三年の帝國經濟會議前此穀物關税の賦課の意志なきことを保守黨内閣は豫め宣言した爲めに、輿論は會議の結果に對し多くの期待を持ち得なかつた。

帝國經濟會議で英本國が發表した所は英國政府は單に植民地の産物たる乾燥した果實、乾燥したカーラント、埋入果實、砂糖、煙草に特惠關税を擴張するの意志あること、來議會に此案を提出すべしと云ふにあつて、特に開かれたる會議としては、此提案はあまりに控目で且つ臆病な提案

保守黨政
府の提案

であつた。尤も英國の如き進歩した國民生活の社會にあつては、小麥其他の穀類肉類の消費以外牛乳、バター、鶏卵、果實、砂糖、茶、コーヒーの消費は多量に上るのであつて、今日運輸機關、冷藏庫設備の完備せる結果として、濠洲、新西蘭、南阿の前記食料品は多量に英國の市場に送られ、丁抹、アルゼンチン等の食料品と共に盛んに消費されて居るのである。從て英國の提案は植民地の生産を助けること莫大である筈であつた。提案の内容は、

- 一、乾燥果實の稅率ハンドレッドウェイトに付き一〇志六片、從來植民地の生産品に六分の一の特惠を與へたのを、無稅とすること。
- 二、乾燥カーラント、ハンドレッドウェイトに付き二志、特惠關税六分の一の處、今後は無稅のこと。
- 三、其他の乾燥果實にして無稅のものも、植民地に利害ある生産品に對し有稅とし、植民地産を無稅とすること。
- 四、埋詰果實、從來無稅の處、植民地産に利害あるものに對し有稅とし、植民地産を無稅とすること。
- 五、砂糖、砂糖の稅率は現行ハンドレッドウェイト二五志八片、特惠關税六分の一、即ち一パウ

ンド半片を現行率低減の後と雖も一パウンド半片の額丈の特恵を今後一定の年限の間維持すること、

六、煙草、未製品の煙草の現行税率一パウンドに付き八志二片、特惠關稅六分の一の處、砂糖の場合と同様將來とも植民地産の利益を考慮すること。

此提案が植民地中、濠洲、南阿、新西蘭を利益すべきことは勿論であつた。然し英帝國將來の大問題を解決すべくあまりに單純な提案であつて、通商院總裁が會長として開會劈頭述べた理想と相去る遠きものであつた。

三、濠洲首相の保護政策提唱

若し保守黨内閣の首相ボルドウィンにして、眞に勇氣があり、戰鬪的政治家であつたならば、英帝國將來の經濟的結合を堅める方法としては、最初から保護政策の採用を此會議に於て主張した筈であつた。所が此大議論の首唱者は英本國から出ずして濠洲首相によつて提唱されたのであつた。首相ブルース氏はケンブリッジ大學出身で、夙にポートの選手として知られ、歸國後濠洲の政界に入るや、老政治家ヒューズ氏の右腕として奮闘し、勞働黨が戰時分裂し、ヒューズ

濠洲首相
ブルース
氏の人物

帝國發展
の三要素

氏また隱退した後同國の政界を支配して居る新人物であつた。彼は帝國會議開會式の間には、數日後れてロンドンに來つたが、彼が經濟會議で開會の辭として述べた大議論は大々的の長演説であつて、其識見の堂々たる、立論の堅實にして引證の該博、且つ英帝國全體の立脚地から熱心に保護主義の採用を力説せる點に於て堂々英本國の政治家を壓するの慨があつた。老チャンバレンが帝國主義を鼓吹し、植民地との近接を論じた當時に於て濠洲聯邦の首相デイーキン氏は識見人物力備に於て老チャンバレンに匹敵するものとされて居たが、今ブルース氏の如きは更に進んで本國政治家の上に出で、之れを指導せんとする態度に出で居る。クリケットのチームにしてもラグビーのチームにても濠洲や新西蘭の選手が全英國を對手として毎度之れを壓迫しつゝあるのと同様であつて、英國國民の精力の中心が今や植民地に移つたことを感ぜしめる一個の實例である。彼は帝國發展の解決は三個の要素、即ち人間、金、市場に懸つて居るが、此要素を別々に考慮することは出来ない。全局の問題を一括して、各要素が相互に關聯する所以を研究しなければならぬ。人口移住の問題を論じた處で、其結果増加された生産物に對する市場を確保するので無ければ、此問題が解決されたとは云はれないとて、濠洲に於ける其經驗からして移住獎勵の困難なることを例示し、英國の市場が、濠洲其他の僚邦にとつて最良の市場たること、濠洲其他の僚

邦の市場も英國の製造業にとつて最上の市場たることを力説した。氏の示した統計によれば、一九二二年度の貿易を標準にして、各國一人當りの購買額を比較すると、英國品に對し新西蘭は一三磅一八志三片、濠洲は一一磅一八志八片で共に最大の最負先たるを示し、南阿四磅六志、加奈陀三磅六志八片であるが、丁抹の四磅一一志三片を除いては、アルゼンチンの二磅一六志七片、佛蘭西の一磅一三志、獨逸の一五志、北米合衆國の一四志七片、下つて伊太利に至つては一〇志一一片に過ぎない。

英帝國政
務治家の義

氏は又英國の生産物及び製造品の輸出の割合が年々外國に對するよりも、英帝國內に於て増加すること、(註三)過去四十年間に濠洲、加奈陀、南阿、新西蘭の貿易増額が一億一千二百萬磅から、十億二千六百萬磅、即ち約九倍の増加を示したことを例示し、一八八〇年に英國の政治家が今日の發達を洞察するの見識があつたならば、僚邦の貿易、僚邦の發達に對し、もつと眞面目に考へたに相違なく、今日眞面目に考慮しなければ、將來も同様の批難を招くを免れ難い。今日に至る迄何等遠大の計劃、全般的の努力は行はれて居ないが、若し吾人は此點を考へ、眞に之れに精力を集中したならば、四十年以後此貿易額の膨張は商業國として英帝國全體の地位が驚嘆すべきものであることを語るに相違ない。吾人が將來に一個の理想を有することを口にすれば、又

英國貿易
の不均衡

將來の國民に對し眞に何ものかを成就し置かんと心掛けるならば、之れを粗末に取扱つてはならない」と喝破した。氏は次で英本國の貿易上の地位が如何に不利益であるかに言及して、外國貿易の不均衡な例を擧げて居る。即ち左表は之れを示して居る。

英國への輸出

英國よりの輸入(一九二二年)

	英國品及製造品	再輸出	輸出總計
アルゼンチン	五六、五〇、二五九	三三、七〇、〇七三	六五、八八四
丁抹 (フアロー諸島を含む)	四〇、三〇九、五〇六	一一、四五一、七七七	一三、六九九、五三四
北米合衆國	三三三、〇二二、九九四	五五、〇三三、四四五	三、六五四、三〇九
總計	三三八、八四二、七五九	九〇、一八二、二七五	三三、五五七、九六〇
五大僚邦	三三三、一一一、四九一	二七、七三三、二二五	一一、三七三、四〇九

前記の數字は Statistical Abstract に出ている數字とは微妙の相違がある。五大僚邦とは濠洲、加奈陀、新西蘭、南阿、英領印度であるが、此内印度は英國に對する輸出額の二倍以上を輸入し、之れに反し加奈陀は英國に對する輸出額の半分以下を輸入するに過ぎない。然し全體に於て五大僚

對米貿易
上の不利

邦對英本國の貿易額は均衡を保つて居るが、之れに反し英本國對アルゼンチン、丁抹、北米合衆國の貿易は不均衡も甚だしく英國の輸出額は其輸入額の三分の一強に當るに過ぎない。就中合衆國よりの輸入超過額は約一億五千萬磅であるから、貿易勘定に於て英國は頗る不利益な立場にあり、其爲替は常に英國側が不利益を蒙ることとなつて居る。戦前に於ては英國は合衆國に對する莫大な資金を投資して居た爲めに、保險、運賃等の表面に表はれない受取勘定を合算すれば、英國の地位はさまで不利益では無かつたのであるが、戦後に於ては此投資額は無くなつて來た。更に之れに英國の地位を不利益ならしめるものは合衆國に對する軍事債の支拂である。之れは英國の金融界に痛切に響いて來たのであつて、英國の政治家、實業家の念頭を去ることの出來ない大問題となつて來た。英國戦後の財政政策が金貨本位制の回復の爲めに全力をそそぎ、爲替の回復を企て、對歐洲の外交政策も之れが爲めに割出され、佛國との親交をも一時犠牲にした状態を呈したのも此商業本位の國情からであつたが、爲替の回復する迄數年の久しきに亘り、爲替の上の不利益による貿易上の差額を合衆國に對し英國が支拂つた額は莫大の數字であつた。スムツツ將軍は此帝國經濟會議に於て此點を力説して英帝國の經濟政策が一轉化を要する理由を左の如く述べて居る。曰く、

スムツツ
將軍の
意見

對米負債問題を承認したことは、英國の是れ迄の經濟政策を再考せしめるに足る一事件であると考へる。北米合衆國は其境界に高率の關稅の城壁を築き上げ、英帝國の産物の入り來ることを防止したるのみならず、英國より多大の金額を年々支拂へと要求して居る。斯る状態の下にあつては出來る丈け帝國の發展策、即ち帝國中發展の可能性に富んでる部分に注意を轉じ、之れ迄英國が米國よりして多量に輸入して居る物資の生産を計らなければ、英國は立ち行かないことになつた。例へば綿花の如き最大の分量を米國から輸入して居る。綿花のみならず、銅また然り、煙草然り、其他の原料また然りであるが、英大陸とも稱すべき阿弗利加に見ても（佛、白、葡領を除きては殆んど全部が英帝國の一部）英國の要求する總ての原料品を生産し得る。世界の銅山の最大なものは阿弗利加にあるとは世人の稱する所である。英國の産業の要求する綿花も此大陸で生産し得る。煙草も同様である。此偉大なる阿弗利加の資源を開發することは將來吾人の努力すべき大事業である。全大陸を擧げて發展をまつて居る。あらゆる種類の氣候あり、無限の物資があるが、是れ迄顧みる所とならなかつた。此無限の資源を開發し、吾人の要する物資を生産する爲めに茲に大計を劃立すれば、吾人の頸に石臼の如く懸つて居る對米負債の巨大なる金額すら支拂ひ得る方法を發見するに難からざるものがある。

阿弗利加
大陸を開
發せよ

若し英帝國に毎年五千萬磅に近き金銀の生産が無かつたならば、又其投資がロンドン市場で掌握されて居なかつたならば、金貨本位即ち爲替の回復は容易で無く、又今後對米債務の支拂は容易で無い筈であつた。理論上爲替の回復は最も望ましく、此成功の困難なるは金銀の生産額の微少なる日本の如き國家が、英國の正貨回復の迅速なる成功に倣はんとし、通貨縮少、物價下落の經濟政策を實行し、それが爲めに金融界の恐慌を來し、今日の不景氣を自ら招き、結局金貨本位制度の回復を遅延ならしめて居る愚を演出しつゝある實例に見て明瞭であるが、然し此一例に見ても英帝國の強固であり、又帝國內の資源發展の必要と其効果あることを證據立てて居るのである。

僚邦の不安心

ブルース氏が英本國に向つて警告したのは英本國の政策が政府の變更と共に變更し、特惠關稅の制度も動搖するやうでは、濠洲も安心が出来ない。濠洲の生産品の最上市場は英國であるから、之れに對し英國が特惠關稅を與へなければ、濠洲も無期限に特惠關稅率を繼續して行く譯には行かない。濠洲に限らず、其他の僚邦の生産品も他國の競争の爲めに打撃を蒙つて居る。第一は低廉な勞働、有色人種の勞働の爲めに、第二は外國の生産過剰品のダンピングの爲めに、第三には世界に蔓延しつゝある商事會社の提携コンパイン又は合同トラストの爲めに其發展を脅かされて居る。此解決の方法は何であるか、英國の爲し得る處は何であるか、僚邦に英國の人民を移住させて英國の失業

問題を緩和させ、英帝國の貿易を増進させ、英國の生産品に對し、僚邦の購買力を盛ならしめる方法は一箇あるのみである。即ち僚邦の食料品、農産物の市場を或る方法で援助する外に手段はない筈である。

ブルース氏は此結論として英本國に保護政策の採用を勸告した。彼の到達した結論は二十何年前ジョセフ・チャンパレン氏の主張したものと異なる處はない。然し前者の場合は英國の産業が今日の如き悲境に呻吟して居ない時代であつて、自由貿易主義に對する信者は尙英國内に満ちて居た時である。今日に於ては自由黨も凋落し、失業問題、勞働問題、作業休止、貿易不振等戦後の經營難はヒシ／＼と英國民の日常生活を襲ひつゝある時であるので、濠洲首相の議論は國論に至大の反響を與へない譯には行かなかつた。現に自由貿易の理論は大戦が既に之れを破壊して居るのである。

四、自由貿易主義の破綻

さしも英國民の政治的思想の根底を爲して居た自由貿易主義も大戦争の爲めには動搖せざるを得なかつた。此主義は平和を前提とせるものであつて、戦争に對し多くの考慮を拂はなかつた。

マツケン
ナ稅率

即ち最も安直な物價によつて貿易は動くのであるが、戦時にあつては、如何に優秀なりと雖も、敵國の生産品を購求することは出来ないと言ふ事實に逢着するを餘義なくされた英國國民、殊に自由黨の政治家にとつては自己の信條を疑はざるを得なくなつて來た。即ち染料の如き、眼鏡の如きは、其供給を敵國に求めて居た爲めに、英國は大なる不便を蒙り、軍事上の不利益を招いたのであつた。此實物教育は彼等をして其主義を一時的なりとも放棄せしめ、一九一五年にマツケンナ關稅率なるものの採用を見るに至つたのである。即ち此稅率は從來の收入主義を破り、國內の主要産業を戦時の必要からして保護し、其發達を奨励する目的で制定されたものである。此制度は一時的であつたが、戦後産業保護法制定されて永久的の性質のものとなり、(註四)労働黨内閣の當時自由黨の後援を必要とする政略の意味も混つて廢止されたが、保守黨内閣となるや、直ちに復活され、且つ其範圍は擴張された。マツケンナ稅率なるものは特に保護なる名稱を避けて *safeguard* なる文字が使用されて居る。尙炭坑業の缺損に對する補助金に *subsidy* なる名稱を殊更に避け *subvention* なる文字を使用したのと同様である。

マツケンナ稅率なるものは、自由黨のマツケンナ氏が大藏大臣として提出した財政法案中の一條項であるが、(註五)自動車、樂器、時計に三分の一の稅率を課し、活動寫眞フィルムに一呎(ネ

帝國軍事會議の決議

ガチーヴの場合)五片以下の稅率を課し、明白に收入を目的とせずして、此種工業の保護を目的とするものであつた。而して此種の稅目は次第に擴張されたのであつた。

自由貿易の一角の崩壞、保護政策の採用は此の如く一九一五年に開始されたが、一九一七年の帝國軍事會議は次の如き決議案を通過して居る。(註六)

帝國資源の開發、就中食料供給、原料品、及び主要工業に關し、帝國をして他國から獨立させる爲めに、總ての奨励方法を講ずべき時は到達して居る。此目的の爲めに本會議は左の條項に關し賛意を表す。

(一)帝國の各部分は我聯合國の利益を考慮すると共に、帝國の他の部分の生産物及び製造品に特に好意ある待遇及び便宜を與ふべき原則、

(二)聯合王國より移住せんとするものには英國國旗の下にある諸國內に移住すべく誘引する手段を講ずること。

無論此決議は戦時控働の際に英帝國の代表者が全會一致で通過したものであるが、「喉元過ぐれば熱サを忘れる」喩の如く、必要の去ると共に、戦時の困難は動もすれば忘却せんとする傾向が無いではなかつた。ブルース氏は此戦時に學んだ教訓を忘れては居ないかと帝國經濟會議に

於て警告し、此教訓によつて今後の方針を決定せよと勸告し、少くとも濠洲だけは、一九一七年に持つて居た見解を今尚持つて居る。而して此決議を具體化する的方法如何、濠洲は此決議に基き關稅率を改訂して英國品の輸入に便宜を與へ、英國の工業を保護するあらゆる努力を爲して居る。翻つて英國の爲さんとする處は如何と問ひ、英帝國が食料品の自給自足を得る方法として、第一、英國の農業を奨勵し、其生産品を増加せしめること、第二、英國農業にして英國内の需要を満たし得ざる場合、植民地の生産業者に出来る丈けの奨勵便宜を與へること、第三に英國の消費者の利益を考慮することの三個の關係を明かにする爲めに五個の提案ありとし、一々之れを解剖して居る。第一の提案は云ふ迄も無く食糧關稅を賦課することであつて、此提案は英國以外の國家が總て實行して居る所で、何等懸念とするに足らない所であるが、英國の國情のみが、獨り之れが實行を劍呑視させ、政治家をして躊躇せしめて居る所のものである。ブルース氏は英國に此偏見あることを認めては居るが「久しき期間に生産費以下の價格で其食糧の供給を得んとして居る國家は、結局生産の漸減を見るに相違なく、供給減少すれば、物價騰貴は免れない。而して此弱點を救済しなければ結局飢餓に瀕すべし。英國の現状は此不幸なる状態に近づきつゝあり」との大警告を發して居る。

ブルース
氏の食糧
關稅賦課
論

英國農業
の衰頹

戰爭中英國が最も困つたものは、食糧問題であつた。自由貿易に伴ふ農業の疲弊の結果は觀面に此國民生活を脅かしたので、政府は應急手段として國內の生産を奨勵し、物價の平準、供給の潤澤を計る爲めに、穀物管理の制度を設け、下層社會の生活を安全にする爲めに、年々五千萬磅の損失を顧みなかつたのであつた。國內の農業を奨勵する爲めに取つた手段は、生産者の利益を維持する爲めに生産物の價額を保障し、物價がそれ以下に下落した場合には政府が買上げることにした事であつた。此の爲めにさしも疲弊して居た英國の農業も一時回復しかけたが、然し間もなく財政は其負擔に堪へずして、此保障を撤回した爲めに、農業の地位は戰前の状態に逆轉し、聯立内閣をして其無定見なる議を免れしめなかつた。英本國の農業が疲弊する根本原因は其土地が瘦せて居るからではない。歐洲大陸の如く保護されないから、合衆國、加奈陀で行はれて居るやうに、粗糞耕作法を採用し、廣大な面積の輪作によつて、肥料を使用せず、又人手を最も少く用ふる耕作方法によつて、辛ふじて農業の全減を免れて居るのである。若し歐洲大陸諸國に於ける集約農法による時は、收入遞減の法則は忽ち其生産費をして其收益以上に上らしめることとなるのであるから、現在に於ては英國内の農産額を増加し、其周密せる人口の或分をも養ふ丈けの分量に達せしめることは不可能である。従て過剰せる都會の人口を再び田園に歸還させて、失

ロイド・ジョーヂ氏の土地國有論

業問題を緩和せしめる事は到底不可能であると云ふ結論に到達するの外はないのである。(註七)ロイド・ジョーヂ氏は二三年來一種の社會主義的土地國有論による英國の農業繁榮策に對する案を發表して居るが、此案は土地國有なる自由主義と全く反對の立場から出發せるもので、自由競争を否認して居る點、複雑なる官僚政治を前提とせる點、農業をして生産的ならしめることに即ち經濟的觀察に全然觸れて居ない點、又其他の點に於て非實際的である點から、一般に歡迎されないのみならず、寧ろ一顧だも値せずとの批難を蒙つて居る。ブルース氏に従へば英國は自由貿易主義の墮勢に囚はれて居る爲めに、英國の農業を疲弊せしめ、之れによつて「最も必要な食糧の供給をして現在外國人のコンバイン(商業的聯結にして一種のトラスト)の掌握する所たらしめ、國內の生産者、消費者にも共に不利益な物價に勝手に上下せしめて居る。帝國の農業が獎勵されなければ食糧供給の支配權は益々外人の手に歸し、戰時に於て既に經驗せる如き慘憺たる結果に陥るべきや、章々として明白である。英國の消費者が現に高價を拂つて居る點を顧みて、關稅政策による保護及特惠の制度が必ず生産費を増加すべしと云ふ結論には到達しないのである。」ブルース氏第二の提案は英國農業の保護及び僚邦に對する特惠關稅にスライディング・スケールの稅率を課する方法であつて、農民生産者の利益が無くなつた程度に物價の下落した場合には、

農業衰退の不利益

此稅率を活用させて、市場の物價を調節せしめ、之れによつて生産者の利益を保護する方法である。例へば英國内に於ける小麥の如き主要生産物の平均生産費を定め、此標準價以下に物價の下落した場合に限り、此稅率の適用を見るのであるから、困難な點は此標準價額の決定にある。

第三の提案は補助金の制度である。此制度は砂糖の生産に對しては英國政府によつて採用され居る。第四第五の提案は比較的重要でないから省略する。

ブルース氏の保護政策の提唱、及び新西蘭の總理大臣マツサー氏の滿腔的賛成は此經濟會議のみならず、英國の政策に至大の反響を與へたことは前述の如くであるが、英國の提案たる果實等の特惠制度に對しては當面の問題として、南阿、濠洲より其範圍を葡萄酒にも及ぼさんことを求めたのであつたが、保護政策の大問題は遂に保守黨内閣を動かさし、此問題に對して、國民の意志を問ふ爲めに總選舉を執行することとなつた。而して結果は自由黨、労働黨が自由貿易支持の爲めに一種の聯合の政戦を行つたことが効を奏し、保守黨の失敗に歸し、保護政策採用の運動も又一時にせよ、其中止のやむなきに至つた。若しジョセフ・チャンパレン氏の如き大人物をしてボルドウインの地位にあらしめたならば、保守黨も斯の如き失敗を招くには至らなかつたであらう。ボルドウイン以下保守黨内閣の政治家は此保護政策に對して強烈な信念と勇氣を持たず、殖民地

一九二三年の總選舉

の意見に動かされた感がないでもない。又此時の保守党内閣は同黨が分離せぬ迄も統一を缺き、オースチン・チャンバレン、バルフォア、ホーン、バーケンヘッド其他聯立内閣にあつた保守黨の一流の人物を閣外に去らしめ、第二流の人物をして、自由黨、労働黨の聯合軍と戦ふ窮地に陥らしめたのであつて、ボルドウィンは此一流人物の後援なき内閣を繼續することの不安を感じしめたことが、保護政策を名として總選挙を敢てせしめた所以だと稱されて居る。一年以後政權が再び保守黨の手に歸するや、英國の植民地に特惠關稅を擴張する提案は實施されるに至つた。

五、英國民の移住難

英帝國當面の問題は英本國內の過剰人口を英帝國內に移住することを如何にして獎勵すべきやにあることは前述の通りである。此問題は特惠關稅と同じく帝國經濟會議の最も重要な議題であつた。

大戰以後移民の成績は英國の希望せる如く好成績ではなく、むしろ甚だしき不成績を呈して居る。

一九二二年に英本國と僚邦の代表間には此移民問題に關し、數個の會合を催し、同年の帝國會

帝國移住法の制定

議は之れに賛成した結果、兩者間に協力することとなり、英國政府は此協議に基づき一九二二年に帝國移住法なるものを通過し、植民大臣は海外移住委員會の勸告に従つて僚邦政府、若くは英國及び僚邦官廳又は公私の機關と提携して、海外移住を希望して居る適當な人物に對し聯合して援助を與へる計畫を實行せしめる權限を與へた。本國僚邦間の一致成つた此計畫は移住地の選定、旅費、費用立替、移民たるに要する訓練等であつて、英國政府は初年度に百五十萬磅、第二年度より向ふ十四箇年間毎年三百萬磅宛の財政的援助を與へる筈であつた。處が此法の下に實際移住した人數は極めて少く、且つ之れに充てられた經費の大部分は不用に歸したと云ふ不結果であつた。(註八)過去に於て英本國が不景氣な場合は、今日の如き政府の獎勵、後援無くともドシ／＼本國を去つて、新天地を開拓し、今日植民地繁榮の基礎を築いたのであつた。然るにあらゆる獎勵、後援にも拘はらず、斯くの如き不結果あるは、其原因那邊にありやと云ふ大問題が起つた譯である。之れに對する解釋としては、帝國經濟會議で英國の代表者バックレー大佐が試みて居るが、同大佐の意見を外にして觀察される所は左の諸點である。

第一に僚邦の要求する移住民は農業労働者であるが、此種のものには英國內では僅少であつて、失業者百萬以上に達するものの總ては僚邦の希望しない工業労働者であること。

移住不成績の原因

第二に工業労働者で、容易に農業の初歩的訓練を受け得るものでも、都會生活の安逸に馴れ、困難な豪健な田園生活を嫌ふこと。

第三に失業保険あり、加ふるに貧民救済法あり、失業者、及び英國國民の負擔となつて貧民は、眞の生活難を緩和されて居るが爲めに、遠隔の植民地に行かないでも済むこと。

ポブラリスムの弊害

英國に於ける最大問題である失業問題は此書に於て詳述出来ないが、要するに其顯著な効果ある他面に於て、働かないでも食へると云ふ悪習慣を労働社會、就中年少労働者に與へ、國民道徳を頽廢せしめて居ることは、識者の認めて居る所である。強制保険法による失業者数は最近に於て百萬人であるが戦後は凡そ百三十萬（大規模のストライキの期間を除き）を上下して居た。貧民救済の下に救助される貧民數も凡そ百三十萬であつて、此合計二百三十萬乃至二百六十萬は戦後の英國の社會が其生活を維持しつゝある所のものである。所が貧民救済の機關たる地方政府の實權は、労働黨の勢力擡頭と共に其手に歸し、殊に最も救済を要する貧民の集團地域に於ける労働黨の勢力は牢乎たる地盤を有する爲めに、救済法は濫用せられ、之れに要する地方費は年々増加する一方となつた。即ち民主政治の甚だしき弊害は此地方政治に現出しつゝあるのであつて、彼等は政權獲得の手段として選舉區民たる大多數の貧民に對し、戶外救済の名の下に食糧を供給し

て居る。此種の政治は初めロンドン郊外のポブラリスムに出現した爲めに『ポブラリスム』なる名稱が附されて居るが、此下層社會は一面から見れば、自由放任主義の下に顧みられなかつた時代の産物で、今日の英國社會が遺産として繼承して居るものだ。無論此種の人間は僚邦の移民としての資格に缺けて居るものであるから、結局僚邦の要求する移民の種は英本國に於ては既往の如く豊富でないと斷言し得る。

植民地に於ける労働者の勞力

植民地の事情に就いても一考を要するが、濠洲の如き新開國であつて、社會に上下の區別なく、労働者の勢力旺盛な國家にあつては、移民の激増を喜ばないので、種々の口實の下に、新移民の就職を妨害して居るのである。濠洲は『白人濠洲』の旗幟を掲げて居るが、更に詮議すれば現住者たる白人の濠洲を支持せんとするのであつて、移民増加の障害を爲して居るものは、濠洲そのものであると云はれて居る。南阿の如きは白人種の労働者は黒人、印度人等の利害問題がある等の事情で、英國國民の移住増加を歓迎して居ないのみならず、各僚邦とも出征軍人の歸農問題、授産問題等政治家の考慮を要すべき問題があつて、新移住問題のみを考慮する餘地が無かつたのである。

然し各僚邦の戦後經營の諸問題も一先づ片付き、引き続き英本國の産業、貿易の不振、失業者

移住者増
加の傾向

數の減少せざること、國民の生活難等の事實は、英帝國全體の立場から、移民の奨励、援助を必要としたのであつて、經濟會議が此問題の解決を重要視したのは無論のことであつた。そこで各種の方法が研究され、會議は海外移住委員會の報告を採用し、移住民には各種の便宜を與へることとした。最近移住民は増加の傾向を示して居るが、土地が最も近接して居ること、移住後就職、農地の獲得が容易である等の關係上、移住民の大多數は加奈陀に赴きつゝある。今一家族が加奈陀の目的地に移住するとして小遣三磅あれば、其他は政府に於て一時立替へる等便宜盡さざる所なしである。

貿易助長
法の適用

移民の奨励、海外領土の生産奨励の方法としての特惠關稅制度の擴張の外に、帝國經濟會議の主要な問題は金融問題であつた。植民地に有望な仕事があつても、金が無い、若くは金に不足して仕事が始まらない場合に、英本國が其金を貸し、又は一時立替へ、利子を支拂つてやる其代りに、其仕事に要する材料を英本國の工場で注文をとること、工場が操業を開始すれば、それだけ失業者が減少し、失業保險に要する基金の涸渴を防ぎ得て、一舉兩得と云ふ名案である。英國が一方に於て資本國であり、他方に於て工業國である事實は此案をして當時の窮狀を救ふ良案とされたのである。有名な貿易助長法(註九)の如きは此目的を以て成立したものであるが、其適用

の範圍は英帝國內に限らず、外國をも含んだものであつて、一外國政府が英國内の工場に注文を發した場合には、英國政府は其支拂を保證するから、銀行から注文品に對する支拂金を借用し得ると云ふ便法であつた。此案は無論植民地にも適用されたのであるが、小規模では到底失業問題の解決とはならないから、英國政府としては大規模の事業の植民地に起らんことを希望したのである。然し此問題に於ても僚邦の利害は必ずしも一致せずして、加奈陀は農業國にして工業國たる事實より、此提案を不用なりとし、南阿は現在の計劃を以てすれば、英國政府の財政上の援助を要せずとした。濠洲、新西蘭、印度の如き比較的工業的發展の遅き諸國は英國の提案に滿腔の賛成を表したに止まり、折角の名案も大なる効果を齎すに至らなかつた。僚邦は既にロンドンの金融市場に優先權を持つて居り、其國內發展に要する事業資金は無條件で年々募集されつゝあるのであるから、單に英國内の失業問題救済の爲めにする事業を企てる必要は無い。従て英國政府の提案は單に一個の決議たるに止まり、且つ決議文中の條件も、次の五箇年間に事業に要する資金に對する利子四分の三の支拂を政府が保證することを以て最大限度とするに止まつた。

(註1) Knowles: Economic Development of the Overseas Empire 參照

(註11) Imperial Economic Conference of Representatives of Great Britain, the Dominions, India,

and the Colonies and Protectorates, held in October and November, 1923; Record of Proceedings and Documents 一九二四年政府出版

(註三) 一九二二年英國の輸出額中歐洲に對しては三一、〇二六、八四七磅、倭邦全體は二八五、七八〇、六四九磅であつて、歐洲全體は二五、二四六、一九八磅程多額であるが、英國の輸出品中英國の生産品及び工業品のみでは倭邦全體が二七〇、四〇四、八〇二磅なるに對し、歐洲全體は二四七、六五五、二六六磅であつて、倭邦の方が二二、七四九、五三六磅餘計である。

(註四) Safeguarding of Industries Act, 1921 [11 & 12 Geo. 5 Ch 47] 第十二條

(註五) Finance Act No. 2 1915 [Public General Acts 5 & 6 Geo. 5, 1914-16]

(註六) The War Cabinet 1917 第10頁、一九一八年政府出版九〇〇五號

(註七) Is Unemployment inevitable? An Analysis and a Forecast 1924 第107-117頁 Sir A. D. Hall: Agriculture and Unemployment

(註八) 英國、愛爾の國籍を有するもので、英帝國內の他の領土に移出したもの數と、英國、愛爾に移入したものとの差は一九一三年に二二三、五二一名で、一九二二年には八四、二三〇名、一九二二年には六八、七二三名である。

(註九) Trade Facilities Act 1921

第十二章 帝國の富源と其の開發

一、植民地の開發

英人努力
の結晶

加奈陀の小麥、濠洲、新西蘭の羊毛、南阿の金、ダイヤモンド、印度の綿花、黃麻、マレー半島の錫、護謨は今日世界の市場の要素をなして居るが、是等の富源開發は十九世紀以來、英人の頭腦、技術、冒險の結晶ならざるはない。彼等の赴く所、土人は統治、教化され、未開の原野は開拓され、鑛山は採掘され、道路、鐵道、運河、港灣は建設開鑿されたのであつた。彼等の前には阿弗利加、印度の焦熱も、瘴癘も征服されざるは無かつた。如何にして今日の英帝國の富強が出来上つたかを諒解するには、之れを我國、朝鮮、臺灣、滿洲に於て我政治家、軍人、實業家、技術家が過去數十年間に成就した處のものを見ればよい。之れを承知すれば英人の事業の性質を想像すること、さまで困難のことではない。英人が印度、埃及等で爲した事業は、吾人が之れを學んで朝鮮、臺灣で試みた處のものである。南滿鐵道や、東洋拓植株式會社の設立は英國のチャ

イタード・カンパニーの組織に負ふ處多大である。クローマー卿が埃及の統治に行つた處のものを伊藤統監が参考にしなかつたとは云へないであらう。唯彼にあつては仕事は獨創的であり、大規模であり、長年月を要したに反し吾に於ては英人によつて示された手本があり、比較的小規模であつた差がある。臺灣や朝鮮の統治の成績が容易に出來たとは云へないが、是れを印度の統治、阿弗利加の開發に比較すれば、同一の論でないと言つてもさまで大膽であるとは云はれまい。智囊あり、膽力あり、強壯な身體を持つて英人は國家の庇護無くして、獨力阿弗利加の蠻地に赴き、宣教師として、探検家として、冒險的企業家として、學術研究者として、氣候と戦ひ、惡疫と戦ひ、土人猛獸と戦ひつゝ、今日の英帝國を建設したのであつた。今日尙吾人の多くは阿弗利加に對しては、リヴィングストン、スタンレー時代の猛獸、食人種、密林、苦熱の阿弗利加を聯想して居るが、英人の開拓、教化が此蠻人をしてヴィクトリア湖畔綿花栽培者として平和的生活に浴せしめて居ることを知るものは稀である。僅かに七十年前ユニオン・パシフィック鐵道が建設される以前のミシシッピ河の西岸は亞米利加印度人の狩獵場であつた。今日世界の大寶庫たる大平原の開發、小麥の耕作、鑛山の探掘は之れより十數年後に着せられたに過ぎない。而して今日人口六七十萬に上る米國中部の都市は僅かに四十年前の草分であるに過ぎないのだ。此

點から考へて見ると水量に於ても、流域に於ても前者に劣らないナイル河の上流スダンの地が綿花栽培地として十數年の後多大の發展を見ないとは何人も斷言を憚る所であらう。

綿花生産の急務

英國が阿弗利加の開發を急務とする理由は別にある。經濟的に英國の弱點とする所は世界綿花生産額の大部分を合衆國によつて占められて居ることである。世界の綿花市場は合衆國南部の綿花栽培の豊凶によつて支配されて居る。之れが豊作であれば生産過剰で相場は激落し、反對に不作であれば、相場は暴騰し、紡績業をして一個の投機事業とならしめて居ることは、世界の經濟界にとつて大なる不幸である。殊に優等種を使用して居るランカシアの工業が合衆國の綿花に依頼することは周知の事實である。そこで合衆國以外に綿花栽培地を發見し、其生産を獎勵することが英國の産業にとつて利益なことは早く氣がついて居たのであつた。綿花の消費量は増加する一方で、合衆國の生産額は同國に於ける人口増加、其他の原因で、同國丈りで消費される時が將來來ないとも限らないのだが、其時に於けるランカシアの將來は悲しむべきもので、軍事上金融上の利害は考慮外に置くも、此基礎的工業の原料を外國、殊に一國に求め、其豊凶作柄に依頼して一喜一憂する現状は、産業の基礎を危険ならしめること勿論である。現に紡績業者は外國の競争其他各種の原因で悲境に沈淪し、目下整理時代にある位である。そこで英帝國內で綿花栽培

綿花栽培
協會の成
立

を獎勵する目的で一九〇二年に英國綿花栽培協會が設立され、多大の經費をかけて獎勵の方法を講ずることゝなつた。(註一)

埃及が綿花栽培地となつたのは百年以前であつて、其優良種の生産は米國産に比して遜色ない。然し此上其分量の増加は多く期待されない。印度は分量の増加は望まれるが、質に於て米國産に劣るから、其品質の改良が急務である。合衆國では一英町一九五封度を生産するのに、印度では七五封度で、然も一封度に對する價額は平均二割方安値である。其輸出高百二十五萬俵の三分の二乃至四分の三は日本で消費されることは何人も知つてゐる通りである。

各植民地を研究調査した結果ガンビア、シエラ・レオン、ゴールド・コーストは風土不適當、其他の理由で成功しなかつた。一九一〇年には英國政府は帝國內に試作の目的で三箇年間一萬磅宛支出することゝし、組織的に綿花栽培に努力して見た。西印度諸島では優良品の栽培に成功した。ウガンダでの栽培は二十世紀以來であるが、成績優等で一九二三年には九萬俵の生産を見、年々激増の見込である。我日本の商人も此綿花の買出しに従事して居る。北部ニゲリアも有望である。

然し如何にせば植民地を開發すべきやの問題に對する回答は、英國の持つてゐる豊富な資本を植

スダンの
灌漑工事

民地に投下して組織的に産業を起すことである。英本國では戰時中各般の工業が戰時の急に應ずる爲めに過度に膨脹して、投資よりも縮少整理を要する時であり、資本は今餘つて居る時である。そこで帝國發展策と同時に對内策、即ち貿易増進による失業救済の目的から案出した貿易助長法の下に、政府保證で投下した額は歐洲並に、植民地に對して五千萬磅であつたが、此中九百五十萬磅は、スダンに於ける綿花栽培地の灌漑工事に充てられ、ピアソン土木會社の請負でナイル河上流の水量を利用する其大工事は既に竣功した。スダンでの難問題は労働者の不足である。多年野蠻時代に苦しめられた黒人の人口は合衆國の黒人が善政の爲めに増加したのと反對の結果を生じ、暴政、惡疫等の爲めに減少して居た。然し灌漑工事が出來上つたのであるから、此利用方法として、同時にスダン拓植會社が設立され、綿花の栽培を計劃し、灌漑に對して政府は事業の利益の三割五分、會社は二割五分、栽培者は四割の分配を受ける契約の下に此大事業は開始された。

スダンの南方、ケンヤ、ウガンダ、ザンジバルの三植民地、タンガニカカの委任統治區域は合計七十五萬平方哩の面積を有し、全滿洲の約二倍に當るが、其天然の富源は未だ手がつけて無く之れからの開發によるの外はない。土人の數も約一千萬人に過ぎない。此大地域は現在商人の立

英領東阿
弗利加の
將來

場から見れば、他の貿易地方と比較して云ふに足りないのだが、森林、農業、鑛物の未開發の富の至大なるものがあり、産業發展、貿易の前途に多大の可能性がある。適宜の注意が向けらるゝに於ては英國の製造業者に對して食料及び原料供給の大なる資源となるべく、同時に其製造品に對する市場となる見込がある。土地の富が増さなければ、住民が英國の製造品を購買することが出来ぬから、農業の發達を計り、其他の天然資源を開發することは第一に必要である』とは、英國の海外市場を研究した産業貿易委員會の報告した所である。(註二)

印度、阿弗利加の農業と米國の農業との相違は、後者にあつては大規模の企業であり、前者にあつては總て小農であることである。即ち自作農であることだ。而して住民は其昔英國人が土人の酋長から買取つて米國に運搬したのと同じの人種である。合衆國にあつては已に歐洲文明の餘慶を蒙つて居て多少進化して居るが、教化すれば立派な耕作者となり得る見込は十分である。殊に自作農である點は米國の如き大農制度よりも、耕作者の地位をして幸福ならしめるかも知れない。ウガンダ地方では犍猛な種族も既に土着の耕作者となつたと云はれてゐる。獨逸の植民地であつたタンガニカが英國の委任統治に歸したことは、英帝國の多年の希望であつた阿弗利加縱斷鐵道計劃の實行に多大の便宜を與へた。現在航空運送の試験は度々試みられて成功し、南阿と英國

阿弗利加
領土の獲
得

との聯絡はカイロー・ケーブタウン線による様になる見込が略つて居る。

阿弗利加の海岸は英國人の先祖が奴隸賣買によつて今日の富強の基礎を作つた所であつた。所が時勢の進化と共に奴隸開放となつてからは、十九世紀の後四半期に歐洲列強間に領土擴張熱が勃興して、猛烈な競争が開始される迄は、宗教家、冒險家以外に熱帶瘴癘の地として多く顧みられなかつたのであつた。所で普佛戰役後、獨逸帝國が組織され、植民地を要求し、佛蘭西またアルサス、ロレーンに喪つた處を、歐洲以外に代償を求め、之れによつて國威を回復せんとする政策の爲めに、領土分割の競争に参加したので、此儘棄て、置いては、阿弗利加は獨佛の爲めに占領される危険に直面したので、英人は佛獨の先手を打つて、大部分の領土を其勢力範圍としたのであつた。然し本國政府は積極的に領土擴張に援助した譯ではない。尤も其帝國主義は保守黨内閣になつてソーズベリー、チャンバレンによつて最も不人望なブーア戰役となり、次で今日の南阿聯合の成立となつたのだが、爾餘の領土の經營は總て各地方に往年の東印度會社同様特許會社を成立させ、此地方の統治を一任したのであつた。現在此特許會社は阿弗利加中央の金産地ローデシアに残つて居るが、前述の英領東阿弗利加も亦然りであつた。英領西阿弗利加も亦同様であつた。此特許會社の設立者は其領土開發に與つて力があつた。世界工業の偉大な發達は其原料要求

熱帶地方
の原料供
給上の利
益

の度合を益々甚だしくならしめ、眼をアフリカの廣大な領土に轉ぜしめるに及んで、有力な實業家は金鑛採掘等の仕事以外に積極的原料品、食糧品の栽培を試みた。コーヒー、ココアの類から、石鹼の原料たる棕櫚の果實に至る迄地味風土に適當なものは悉く學術的に利用されたのであつた。此經濟的發展と特許會社の不成績であつたとの兩事實は、相次いで英國政府をして前記の領土を直接統治する必要を感じしめたのである。印度のアサム、錫蘭島で茶の栽培に成功したリプトン卿の如き、西アフリカで棕櫚の栽培に成功した石鹼王リヴァヒウム卿の如き、最近に於ける此種英國實業家の典型であるが、何れも一代にして巨額の富をなした人傑であつた。リプトンやリヴァヒウムの示した處は熱帶領土が英帝國の一部として如何に有望であるかを經濟的に證據立てたものである。従て戦後の英本國が之れが開發に力瘠を容れて居るのは無理からぬことで、第二次ボルドウィン内閣の成立と共に精力絶倫の政治家エメリーを植民大臣とし、其下に帝國主義的政治家ソーズベリー卿の姻戚オルムスビー・ゴアを任用して植民次官として、鋭意植民地の開發に努力せしめて居る次第である。

前述の如くアフリカの植民地の富源開發は將來の問題であるが、他の方面に於て現在既に有望なものに錫蘭島あり、マレー半島がある。錫蘭島の茶が世界に冠絶して居ることは前にも述べて置

錫蘭島の茶

いたが、茶に次で有望なものに護謨がある、ココナツツの生産も近年激増しつゝある。面積二萬五千餘平方哩、人口四百五十萬で、其人口の密度も我國に稍匹敵するものあり、勞働力に缺くる處はない。其輸出は年々増加して居る。

▲英領東アフリカ貿易表（一九二三年）

輸 入（正貨を含まず）	六、一九五、〇〇〇磅
内英本國よりの輸入（比率四割一分八厘）	二、五八七、〇〇〇磅
輸 出（正貨を含む）	六、二八四、〇〇〇磅
内英本國への輸出（比率四割三分一厘）	二、七一〇、〇〇〇磅

備考

英領東アフリカ植民地間の貿易は右表中に含まれてない

▲英領西アフリカ貿易表（一九二三年）（物貨に限る）

ニゲリア	輸 入（千磅）	一〇、二七〇	輸 出（千磅）	一〇、八〇三
------	---------	--------	---------	--------

一 植民地の開發

二五八

ゴールド・コースト	七、七二八	七、五四四
シエラ・レオン	一、六六〇	一、三四七
ガンビア	七九〇	八六二

▲セイロン島貿易表（一〇〇〇ルピー）

	一九〇四年	一九一三年	一九二三年
輸入（正貨を含む）	一一六、四八三	一九九、六四一	二九二、一六〇
輸出（同）	一〇四、二六六	二三四、八六四	三五一、一九九

備考 茶の輸出は一九二二年に一億四千六百萬ルピー、一九二三年に一億八千六百萬ルピー以上に達し、護謨は一九二三年に七千八百萬ルピーを超えた。（ルピーは一九二三年の爲替で一志四片、それ以前は銀價暴騰して二志以上に當つた。）

馬來半島の錫鑛は古來支那人が經營した所であつたが、極東に至る通路の要港として、英人が新嘉坡を占領した當時に、此熱帯の地域が、今日經濟的に重要を占めるとは、何人も想像し得なかつたに相違ない。馬來の繁榮は二十世紀になつて自動車の工風發達に負ふ處多大であるが、今後此發達と共に益々有望の度を加へる譯である。僅々十年間に二萬英町歩の面積は護謨國と化し、

馬來半島の錫鑛

護謨の需要さへ増加すれば、耕地は無限に増加し得るのである。馬來の發展に支那人、日本人が如何に貢献してゐるかは今更説明を要しない。而して新嘉坡、彼南、マラカ等の海峡植民地、ペラク、セランゴール、ネグリ・センピラン、パハングの馬來聯邦、ジョホール、ケダハ、ベルリス、ケラントアン、ツレンガヌの聯邦に包含されざる保護領内の農産物、鑛物等天然の富源の開發は將來にあるのである。而して新嘉坡は其海軍根據地としてよりも、爪哇、スマトラを包含する南洋貿易の中心として今後大發展を期待されて居ることは、之れまた陳述を要しない。

▲新嘉坡貿易表（一、〇〇〇磅）

	一九〇五年	一九一三年	一九二三年
輸入（正貨を含む）	三三三、二二三	五五、九三六	九〇、八八五
輸出（同）	二八、二九六	四五、三七五	八三、二〇六

好景氣の頂上にあつた一九二三年の護謨の輸出高は蘭領東印度から輸入されたものの再輸出を加へて、三千三百萬磅に達した。同年錫の輸出高は六九、八八〇噸で一三、九六三、〇〇〇磅に上つた。丁度世界の産額の三分の一である。

二、印度の開發

正貨流入

今日の印度は獨り農業國として、農産物たる棉花、黄麻の輸出國としてのみならず、八大工業國の一として、世界の産業に其地位を占めて居る。其貿易上は常に輸出超過の國として、正貨の流入國として、北米合衆國と共に最も順調に置かれてある幸福な國家であることに、何人も異議を挟まないであらう。(註三)阿弗利加に産出する巨額の正貨は英國に流れ、茲から二個の潮流に分派して、一個は合衆國に向ひ、他は印度に向ふこと、恰も黒潮が印度洋に發して日本の南岸を東に流れ、墨西哥灣に發した暖流が合衆國の東岸を洗ふて北海に向ふ如く、正規的である。今日の印度三億萬の生活状態は決して美望すべきものではない。民智の程度は日本に比べて遙かに低級で、國民大多數の生活状態に尙一段と向上するを要し、國民の迷信を一掃し、幼年結婚の禁止、寡婦虐待、キャースト制度の廢止等社會上の惡弊の改廢すべきものが頗る多い。然し乍ら自然によつて恵まれた氣候は其農産物の成熟をして温帯地方よりも容易ならしめ、比較的勞少くして、其無限の産物を有利に海外市場に送り得る立場にあり、且つ一度印度に入つた正貨は永久に流出する惧なき程に、年々此國に蓄積されてる事實は、此國が年々其富を増加しつゝあることを證明

天恵的國

するものである。英國の統治下にあつた埃及と共に、印度は國內平穩で秩序亂れず、經濟的には世界上今日最も幸福な國家と云ふの外はない。

西歐文化の影響たる國民主義を完全に享有して支那の現状と、英國の羈絆を完全に脱し得ない埃及及び印度の現状とを仔細に比較して孰れが國民生活上幸福な地位を占めて居るかを一考するは決して無益なことではない。印度の今日あるは、埃及の今日あると同様、英國人の統治的天才、學術的天才の遺業であるとの讚辭は決して惜しむを要しない。然し今日の印度を作り上げる事は容易では無かつた。全人口の七割以上を占めて居る印度の農民の生活は一に季節モンスーンの雨量に依頼するのであつて、此雨期が順調であれば、作物が豊饒で、生民其塗に安んずるが、一度不順となれば不作を免れず、飢民道に横はり、疫病次で起ると云ふのが、英國政府が印度統治の全權を東印度商會から回收し、印度の政治に對する責任を負ふた時の印度の状態であつた。國土が廣大であるだけ、一局部が豊作で、穀物は余る程あり、從て價格は零に近い程低下し、百姓は金に代へる事が出来ない状態であるのに、數百哩を距てた他の地方では水不足で作物は涸れ、食物は騰貴し、人民は食ふに物なしと云ふ状態は年々繰返されたのであつた。印度政府の事業は廿世紀の初めまで毎年百萬人以上の飢饉による窮民救済の爲めに繁忙を極めたのであつた。此時代の印度

一八五七年當時の狀態

は道路を有せず、交通機關としては遅々たる二輪車の牛馬以外に無かつたのであるから、カルカッタより西北邊の國境に達するには三個月以上を要したと云はれて居る。

そこで印度政府の第一の事業は盛んに灌漑工事を起すことであつた。第二の事業は交通を起すことであつた。此兩事業は相俟つて今日の印度の繁榮の基礎をなし、且つ印度をして一個の國家たらしめ且つたらしめつつある處のものである。サー・エドウィン・アーノルドは印度總督ダルー・ジ・傳中に書して「鐵道は幾多の王朝が成し能はなかつたものを——アクパール大王の天才が善政を施しても出來ず、又チツポー・サヒブの暴戾が其虐政によつても成し就げ得なかつた所のものを印度に成就し得るかも知れない。鐵道は印度をして一個の國家たらしめるかも知れない」と云つて居るが、六十年前に書いた此言は今日完全に適中して居る。鐵道は印度をして國家たらしめ、灌漑は印度をして世界的農業國たらしめた。

印度の雨量

印度の平均雨量は地方によつて相違があり、アサム山岳地方のチラプンチで四六〇吋の大より上部シンドの三吋に及ぶものであつて、一年の或季節には印度の大部分は雨季で植物が急激に成長するが、他の時季は苦熱乾燥する。そこでどうしても毎年此乾燥季に對し水を用意することが必要となつて来る。然し年々雨量は其程度に差がある。雨量が不足する場合には印度の大部分は

二種の灌漑工事

飢饉を免れ難い。五年に一度は旱魃であつて、十年に一度は大旱魃を免れ難い。パンジャブ、シンド、西北邊境、山岳地方以外のユナイテッド・プロヴィンセス、ビハールの大部分、海岸一帯以外のボンベイ、マドラスの大部分、セントラル・プロヴィンセスの一部、ブルマの若干地方は悉く雨量不規律の地方であつて、此地方に於て灌漑工事を必要としたのである。(註四)

灌漑工事の方法は地勢によつて一様で無い。インダス河及び其支流、ガンヂス河及び其支流は先づ灌漑に利用された水源であるが、是等の大河は源をヒマラヤ山脈に發して居るから、雪解けの水は夏季徐々と河流をうるほして来るが、印度の中部となると河川は雨季以外乾き、一度雨季に入れば河水踏々瀑の如くなつて一時に水量が増加するから、此無駄となる水量を乾燥季に貯蔵する必要が起つて来る。そこで前者の河流を灌漑に利用する方法と後者の河流を利用する方法には技術上の相違があつた。周年的の運河は一年中水が流れて使用に供せられるものだが、洪水利用の運河は河川の水嵩が増して水量が用水路に流入する時利用し得るものである。雪解により河水が夏季に氾濫するものは水を最も要する乾燥季に河水は最も高くなる。此種の運河は河水の分量が或る高さ迄來ないと、其水は運河の用水路に流入しないから、年を通じて使用する譯に行かない。此洪水利用の運河は河川を横斷して堰堤を築造して、水嵩を増し周年水の利用が出来るやう

にしなければならぬから、建設費が多額に達する。インダス河、ストレズ河の最近建設された工事は此氾濫利用の運河を周年的運河とするやうに計畫されたものである。

此他に灌漑用には地勢に應じて潜水池、及び井戸の設備があるが、是等も遺憾なく建設されてある。政府の仕事は主として運河の大工事であつて、井戸、潜水池は民間の仕事を奨励補助する程度に止まつた。現在灌漑用井戸の数は二百五十萬に達し、千二百二十五萬英町の耕地を露ぼして居る。此投下資本は十億ルビーに達したと稱される。

今數十年間英國の技師が建築した運河に就いて詳述する煩を避けるが、一九二二―二三年度に此灌漑區域は印度諸侯國の領地以外に於て二千八百三十三英町歩に達したと云ふから、其大規模の施設なるかを諒解し得られやう。此面積は印度の全耕地の一割三分に當つて居り、運河の本支流用水路の全長は六萬七千哩であつて、此灌漑區域の生産額は十四億三千七百五十萬ルビー（一ルビー凡そ我七十五錢）に上つた。

灌漑工事の効果は獨り作物の出來榮をして平均せしめ、農民をして安んじて耕作せしめたのみで無く、從來不毛の原野を沃土と化し、耕地を増加し、國內移民を奨励することとなつた。灌漑工事の最も盛んに行はれた印度の北部のパンチャブの人口は激増し、其産物の輸出港としてカラ

灌漑運河
の成績

チは日に繁榮に赴きつゝある。

工事中の
灌漑工事

灌漑工事の計畫及び其建設は今日尙印度政府の盛んに實行しつゝある所で、現に着手中のサルド・ウッド運河は本流四七八哩、用水路二、三七〇哩、放水路一〇〇哩、灌漑面積百四十萬英町である。ストレズ流域運河は夏季及び雨季に一秒時間四八、五〇〇立方呎、冬季に七、〇〇〇立方呎の水を流出して五百萬英町歩の不毛の地を化して耕地とするにある。更に最近起工されたスクール・ロイド堰堤はインダス河の上流に一哩余の堰堤を築き洪水期の水を利用してシンドの不毛地を耕地と化する計畫であるが、運河工事中の最大工事であり、灌漑耕地五百萬英町歩（我二百萬町歩）之れに要する工事費豫算千八百萬磅（一億八千萬圓）である。

灌漑工事は印度の農業をして利益あるものとし、農民の生活を安定し、飢饉を最低限度に切り下げ、農産額を増加して輸出額を高めた許りで無く、印度政府の収入を増加せしめた。灌漑用水の使用に農民を習熟させるには二十年の年月を要すると云ふが、此使用費の徴集は結局建設費の利子を消却して尙ほ余りあり、給水使用料の總収入一億ルビー、支出三千九百萬ルビーであるから優に支出を償ふて餘りあり、投資に對する純利益は七分三厘に當つて居る。

農民に水に對する心配無く、年々の作物順當であることは、また中央政府の主要財源たる土地

國庫收入
の増加

税に對する見積を安定せしめた。のみならず不毛の地を化して良田とした結果、耕地の増加は土地稅收入をして益々増加せしめる間接の效果がある。

鐵道の建設の效果

印度政府が灌溉工事に對する努力と其成績は凡そ叙上の如くであるが、鐵道建設に對する努力も之れに劣らぬものがある。前述の如く印度は北米合衆國や支那に劣らぬ大陸であるが爲めに、一地方は豊作であるのに、他地方は飢饉に見舞はれ、人民は算を亂して餓死する事は毎年繰返されて居たのであつた。所が牛車以外に交通機關を有しない時代にあつて、政府は唯此慘狀を座視する外救助手段がなかつたのである。一度鐵道の敷設と共に此慘事は大に免れ得たのである。手續本綿を着用して牛車に乗つて古代印度 精神的文明を高調し、西歐文明を呪つたガンヂーの運動が二三年ならずして共鳴者を失つた事實は當然の趨勢であつて、物質文明の弊害を如何に過大に見積つても、英人の建設した印度の鐵道網が印度の國防、統治、社會、經濟に及ぼした顯著な効果を無視することは出来ない。一九二二—二三年度に印度の鐵道哩數は三七、六二八哩に達した(註五)北米合衆國の鐵道哩數に比較して尙六分の一であるが、之れを支那が共和國となつて以來滿洲以外に一哩の新設線も増加しない事實に比較すれば、兩者の經濟的差異の如何に顯著なものがあるかを知り得る。鐵道に於て印度は日本の先輩で、一八五〇年に最初の鐵道は敷設された。

鐵道哩數

而して大河峻岳、洪水の被害多く、加ふるに熱帯であることと、國民の經濟力微弱である爲め、最初から收支相償はないから、鐵道は國有ならざる迄も、政府に於て利子を保證するの外はなかつた。一九〇〇年迄に全國の鐵道が五分以上の利益を挙げ得なかつた事を以ても其經營難は察せられる。即ち此年迄は收入相償はず、印度政府は一方建設費を調達するに困しみ、他方維持費に悩んだのであつた。而して全部ロンドン市場で公債發行によつて求める外はなかつた。十九世紀末迄に毎年の收支不足額の總計は五七、五二七、三〇七磅に達し、一八五八年から一九一八—一九年迄に支拂つた利子は二〇八、三四四、〇一五磅、之れに對する純收入は一五六、八一六、七〇八磅であつた。

然し此鐵道建設政策の效果は廿世紀に至つて顯はれ始めた。印度の繁榮は鐵道收入の増加となり、一九〇〇年から一九一八—一九年迄に四四、七四二、二七六磅の利益を收め、結局六、七八五、〇三一磅の損失を見るに過ぎなかつた。

歐洲大戰の惡影響

印度の鐵道政策上の新时期は歐洲大戰の結果として起つた。之れは印度の政治的革新と至大の關係がある。前述の如く印度の鐵道は全部英人技師の技能にまつたものであるのと、印度の工業が幼稚であつた爲めに、鐵道に要する材料即ち軌道橋梁材料、機關車、車臺等は全部之れを英

國より仰いで居た關係上、大戰と共に其供給は一切遮断され、大戰中印度の鐵道は機關車車臺の取換等全部の改良工事停止の余儀なきに至り、使用年限を超過した車臺も其儘使用し、列車の運轉回数は減少し、客車は何時も満載の状態にあること、東京大阪等の大都市の電車の雜閑時間に於ける如きものがあつた。三等客は貨物同様の待遇だとの批難には印度に於ても發せられたが、印度に於ては政治運動と結合して、英人に對する反感となり盛んに改革が絶叫された。印度人は必ずしも旅行好の國民ではないが、鐵道の便宜を解し初めてから、各地の靈域に團體的參拜の風習は大に増加した。それが一時に五十萬、六十萬の民衆を輸送することは鐵道省の仕事として重大事であるが、斯る場合壽司詰の苦痛は國民にとつて不平の原因となるのである。殊に議會開會以來其不平は屢々議題となつたので鐵道問題改革委員會が任命され、其報告に基づいて、鐵道省は從來の如き委員制を廢して一個の長官を置き之れに全責任を負はせて諸般の改良を行はしめること、一般の豫算と分離し、獨立的に長期に亘り計畫を立て、不景氣時代の收入減の爲めに改良建設費に累を及ぼさないやうにすることとなつた。而して印度政府は一九二三年以後五個年間に十五億ルピーを鐵道の建設改良費に投ずる計畫を立て着々實行中であるが、其中半分以上は英本國に機關車客車其他の注文に當てられる筈である。印度の輿論は出来るだけ其材料を國內の生産

鐵道改良
の民論起
る

品を以てせんとするにあるが、印度今日の工業状態は先進國の製品と自由競争の程度に達して居ないやうである。

次ぎに印度の輿論の主張する所は鐵道の從業員を専ら印度人を以てすべしと云ふにある。一九二二―二三年の從業員七五三、四七二名、中印度人は七三四、三九一名、英印人一二、二〇一名、英人六、八八〇名であつて、漸次印度人を訓練して重要な地位に就かしめる傾向になつて居るやうだ。

斯くの如く灌溉事業にしる、鐵道事業にしる、其他道路、港灣にしる、印度が大發展を爲し遂げ得たのは英人の經營技術の良ろしきを得たこと勿論であるが、他方に於ては英本國政府の援助の結果に外ならない。殊に其資本的後援である。本國政府が保證するから、印度政府はロンドン市場で有利な條件の下に公債を發行して、是等の土木工事に要する資金を得る上に多くの不便を感じ無かつた。印度が最初から獨立して居る國家であつたならば、決して斯くの如き便利は持たなかつた筈であつた。而して此便宜が無かつたならば、印度は外寇の危険なく、國內統一したと假定しても、今日の如き迅速な發達を遂げ得たか大なる疑問である。ロンドン市場に於ける印度の信用は強大を誇る日本が足下にも寄り附け無い強味を以て居る。此點は獨り印度に限らず今日獨

ロンドン
市場の後
援

立の地位に進んだ僚邦は勿論、英帝國の各植民地悉く均霑せる所である。阿弗利加に於ても、英國の植民地と、之れに近接して居るアピシニア、リベリアの進歩の程度は同日の論でないが、一は英國の資本の後援を有し、他は皆無である差に外ならない。今日北米合衆國の強大の素因を爲したものは英國人の植民と其投資であつたが、國家本位から云へば、英國が初めから此投資力と剩餘國民を英帝國內に集中した方が利益であつたかも知れない。獨り投資計りで無く、英本國民は今日の英帝國を建設する爲めには多大の負擔を取つて居るのであつて、一八八〇年の調査では過去十年間に植民地の一般行政費並に軍事費として支出された額は二二八五、三一〇磅並に二六、四〇六、一八九磅であつた。即ち英國の國庫から合計二八、六九一、四九九磅の高が植民地の統治の爲めに支出されたことになる。

信託法

英國の信託法は委託者を保護する目的で信託會社が或る種以外の有價證券を購入することを禁止して居る。植民地や、印度の發行した公債、市債はコンソルや、英國内の市債と同様此特典に浴し得るのであるから、比較的有利に債券を公募し得るのである。英國の資本が斯る特典の下に植民地に投資され、從て植民地が利子を節約し得た金額は一九一一年の推算では年々一千萬磅を下らないと云はれてる。(註六)

植民地印
度への投
資額

ロンドンの金融市場で發行された植民地印度への投下資本額は一九〇九年末までに十五億五千四百萬磅に達したが、(註七)此中印度政府の發行した公債利子は平均三分二厘一毛で、植民地や都市の債券利子は三分七厘一毛、植民地の鐵道は四分、印度の鐵道公債は三分八厘七毛であつた。英國の加奈陀に對する投下資本は一九一〇年迄に三億七千三百萬磅に達して居るが、無形の投下資本を加へると年々約四千萬磅に達して居る。加奈陀に建設された鐵道の殆んど全部は英國の投資であつた。最近加奈陀の信用が高まつて其國土開發に要する資本を意の如く募集し得たことは人口の激増を刺戟すること多大であつた。

オーストラリヤが一九一〇年迄に借りた有形資本の高は三億八千萬で、其中三億一百五十萬磅は濠洲、七千八百五十萬磅は新西蘭の借用せるものであつた。濠洲政府の借りた金は主として鐵道建設に使用された。即ち濠洲加奈陀共に鐵道の建設資金は英國の資本に依つた譯である。

同じ期間に南阿への投資は三億五千一百萬磅であつて、其中一億二千五百萬磅は鑛山會社へ、七千三百萬磅は土地會社へ、(此中八百二十五萬磅は南阿特許會社へ)九千七百萬磅は各州政府へ貸與されたものだ。

印度への投資は三億六千五百萬磅に達し、其大部分は鐵道の建設費に充てられたが、此中には

直接政府に貸したのもあり、鐵道會社へ貸したのもあつた。

加奈陀、オーストラシア、南阿の白人種の人口は一九一一年に千四百萬、此に對する投資額は一億磅に達して居るが、此外に英帝國以外にあつて、資本的には其勢力圏内にあるもの多々あつて、其國土の開發を助長してものに、アルゼンチンがある。其投資額二億六千九百萬磅中一億八千六百萬磅は主として鐵道建設、一千九百萬磅は電氣鐵道の建設費である。蘭領爪哇、スマトラ、モザンビツクの如きも或點迄は英國の金融的植民地である。

黄麻の生産

黄麻と綿花は印度の二大農産物であり、且つ輸出の大宗であつて、印度繁榮の基礎を爲して居る。黄麻は唐米袋で知られて居る如く、今日世界貿易上物品の包装用に缺くべからざるもので、其需要は世界的であるだけ、輸出高も年々増加の一方である。綿花の生産がボンベイを中心として行はれるのに對して黄麻はガンヂス河の流域を生産區域とし、其中心はカルカッタにある。此二大農産物に伴つて、製造業が起つたのは當然であるが、ジュート工業が専ら英人の投資經營であるのに、ボンベイの紡績工場が一に印度人の投資經營であるのは好個の對照である。尤も印度人と一口に云つても、其實はバルシー人である。此人種は僅々十數萬ボンベイに居住するに過ぎず、彼等は其昔波斯から移住し來つたもので拜火教の信者であるが、其商才にかけては我近江商人を

バルシー人の商才

紡績業の保護

して遜色あらしめるものがある。此點に於てはベンガル人は顔色なしである。黄麻は一七九五年東印度商會が輸出を開始し、蘇格蘭ダンデーの織機業者が取扱つた因縁から、カルカッタ附近の黄麻の工場は蘇格蘭人の經營に歸した。勞働者はベンガル人以下各州からカルカッタに集合して居る。カルカッタの附近には石炭の産出があつて、安直な動力を得られる便宜がある。ボンベイの紡績工場が企業的なバルシー人の手で建てられたのは一八五一年であるから、かなり古い。然し其發達は英國及び日本の工業の壓迫を受けつゝあることは、印度の政治運動を驅て保護貿易主義を採らしめるに至つたのでも明かである。此主義による關稅率の立法部通過は其結果であるが、此紡績業の弱點は印度勞働者の不熟練、其他工場組織の弱點から來て居るとは公平な觀察者の一致する處である。ボンベイ附近には石炭の産出がない。従て燃料は遠く英國又はナタールから輸入されたが、一九一五年西グハツツに兩季の水量を貯へ、之れを利用した水力電氣の利用をなし得て以來、燃料問題は解決された。印度の工業の弱點であり強味である點は勞働賃銀の低廉にあるが、生活程度の劣等な印度の勞働者がカルカッタ、ボンベイ其他の近世的都市に密集せることは、茲に都市衛生問題、勞働問題、社會問題を發生し、日本に劣らない産業争議を惹起しつゝある。(註八)

印度の爲めに氣を吐くものは製鐵業の勃興である。廣大な印度の領域に鑛物其他の天然資源がない筈はないのであるが、印度政府は之れまで此方面の開發を閉却して居た。灌溉、鐵道方面の仕事、農業の啓發、獎勵で政府當局の手に餘る程の仕事であつた爲めに、他を顧るの余裕が無かつたか、工業生産品は之れを英國其他からの輸入に仰ぐ積りであつたか、其邊のことは深く穿鑿する必要はないが、兎も角も政府は此方面のことを捨て、顧みなかつたのは事實である、工業貿易委員會も印度の『大部分は調査不行届のまゝで測量も未了であり、資本及び企業をまつて居る』と、簡単に報告して居るが、若し印度人が政府の指導のみをまつて自發心に缺けて居たならば、今尙製鐵業は起らなかつたに相違ない。

ボンベイの紡績業が専らパルシー人の經營であることは前述せる通りである。之れによつて富を築き上げた彼等の中で財力に於て勢力に於て我三井三菱の地位にあるものにタタ家があつた。(註九) 財豪ヤムシードジー・タタは夙に印度に金屬工業を企てる計畫を持つて居たが、印度の官憲は極めて冷淡に取扱ひ、何等の便宜をも計らんとしなかつた。政府の後援が無いから英國の資本家も對手になつて呉れなかつた。そこで一九〇二年にタタ氏は紐育の著名な工業技師シ・ペー・ー・ベリンを訪問して、其計畫を打ち合ひ、其賛成を得て米國の技術家の一隊を招聘して幾多の

困難を冒し、普く鑛區の探求に従事せしめることとなつた。タタ氏は間もなく死没したが、其遺業を繼承したサー・ドラブ・タタの時代になつて、カルカッタを去る僅かに百三十哩の未知未探檢の地域に豊富な鐵鑛區が発見され、其附近には炭鑛區もあり、利用し得べき水力もあり、加ふるに工業市街建設の敷地に適する場所あり、之れに鐵道を連絡するに於ては立派な製鐵業を建設し得べき見込が十分立つた。而してロンドンの資本家を説いて後援を求めて應ぜられなかつた彼等は、印度人丈で資本を集めて此事業を開始したのである。之れが今日タタ製鐵鋼業會社の起原である。

一九〇八年に原始的民族ソントルスの居住して居た密林は切り倒され、一九一〇年には米國會社が請合つた製鐵工場は落成し、事業は開始された。我輸入貿易上壓倒的勢力を持つて居る此製鐵業も僅々十四五年前の起原に過ぎない。鉄鐵は其生産費の低廉な爲め顯著な効果を直ちに發揮したが、製鋼業は熱帯に此事業を開始することは技術上始めてである爲めに、幾多の困難があつた。然し此事業に幸したものは歐洲大戰であつて、此刺戟を受けて偉大な發展を遂げたのである。メソポタミア、埃及、パレスティン、西阿弗利加に軍事上鐵道が敷設されたのだが、若しタタ會社が軌條を製造し、供給し得なかつたならば、戦局はどうなつたか想像出来ないとは、後に至り

印度總督レッティング卿が與へた諍辭であつた。

製鐵業はタタ會社の外にベンガル製鐵會社、印度製鐵鋼會社がある。鑛區は主としてカルカッタに近いビハール・オリサ、ブルマ、セントラル・プロヴィンセスにあり、鐵鑛の産額は一九二二年に六十二萬噸餘、一九二三年に八十萬噸であつた。印度は戰前百萬噸以上の鋼鐵を輸入に仰いで居たが、保護關稅率適用された今日、此工業の發達は國內の消費を自給せしめる日が来るであらう。

金貨本位制採用の問題

歐洲戰役は日本と同様、印度をして成金時代を現出せしめた。日本の貿易勘定による利得は二十八億に達したとは専門家の説であるが、印度の利得も非常なものであつたに相違ない。印度が一種の成金氣分に掩はれ、精神的にも經濟的にも其影響を受けたことは日本の現狀を知るもの想像し難からざる所である。印度政府は國內の需要に應ずる爲めに盛んに銀を買收したので銀の價額は暴騰し、印度は物價騰貴と、生活難に困しんだが、戰役の反動時代に於て銀の價格は暴落する、海外への注文品は金貨を以て支拂はなければならぬ爲め、印度の貿易商は注文品を受取れなくなる等經濟界の信用を攪亂せしめたのであつた。戰時中貿易の受取勘定は金貨の流出を禁止された爲めに、印度政府はロンドンに一億六百萬磅の基金を擁して居たが、戰後銀の暴落は爲替

貿易の發達

關係に於て印度の大損失となつた。通貨委員會の勸告した金貨本位制の採用は政治上の事情で未だ實施を見るに至らないが、早晚實現して爲替の安定を見る時が来るだらう。灌溉、鐵道の效果顯はれ、飢饉と疫病と交代に襲はれて居た印度をして、其物質的繁榮を謳歌せしめるやうになつたのは廿世紀になつてからである。印度の貿易が歐洲大戰に至る迄年々急激に増加し、一九一三年には一九〇一年の貿易額の二倍となつたのは何よりの證據であつた。

英領印度貿易表(單位千ルピー)

	一九〇四年	一九一三—一四	一九二三—二四
輸入	一〇四、四一、二七	一九一、三一、八〇	二二七、六一、一三
輸出	一五七、七二、二一	二四九、〇〇、七五	三四八、八三、六一

工業化の運動

政治的自覺、經濟的繁榮と同時に起つたのは印度を工業化せんとする運動であつたが、之れも今日現實さるるに至つた。印度の工業が大戰の刺戟を蒙り、平常なれば數十年を要すべき結果を數年間に實現するを得たのは印度の幸福であつた。印度に於ける事實上あらゆる工業は、其機械及び機具は勿論のこと、日常の仕事に使用される物品材料等に至る迄悉く海外の供給に待つて居る事實は大戰開始と同時に曝露された。今迄此發達獎勵を閉却して居た政府も戰爭の遂行上大

工業は移
轉事項

不便を感じたので百方應急策を講ずる必要に迫られたが、一九一五—一六年度の初期には其効果見るべきものがあり、戦争終了の頃には印度工業委員會の勧告に従つて帝國工業局を設置する段取になつて居たのを、政治革新の結果工業發展の條項は「移轉」條項となつた爲めに、此原案の改正を要することとなり、結局各州に工業省が設けられた。此省の各長官は其州内に於ける工業の發展に對し總體の責任を負つて居る工業局長であつて、研究獎勵及び工業上の知識の蒐集普及に對し責任がある。之れに加ふるに工業省の大臣は州内のある工業に獎勵金若くは貸付金を與へ得る權能を賦與されて居る。概して云へば、國內の工業に援助を與へることは印度工業委員會の勧告に従つたもので、其條項中には織機方法、巡回教師を任命するとか、勞働節約の工風を講ずるとか、動力を補助的に使用する工場の建物をどうするとかの項目があり、大仕掛な組織的工業となると、政府で科學的研究をやるとか、専門家を貸すとか、正確な情報を集めるとかの類で、小仕掛の工業となると、有用な技術上の援助をしたり、工場の維持を助ける等のあることがある。更に進んで勞働問題及び賃銀時間其他工場の状態に關する統計的材料の蒐集等の問題も討議され、其結果一九二二年度工場改正法が通過したが、其主要の條項は、勞働時間の制限、少年勞働者の年限を高めること、工場の定義を擴充すること、此法律の範圍内に一年中一日でも二十人を下ら

ざるものを雇傭する場所を包含せしめることであつて、勞働者賠償法も同時に通過した。

印度需要
品省

印度需要品省を設け、政府が必要とする建物及び材料の供給を規定する規則を發表したと、印度關稅委員會を任命して、印度關稅局を設置し、後者の勧告に従つて印度の製鋼業を保護する提案たる二大商業上の方策は法律となり總督は之れを裁下した。

需要品省及同省規則の制定に就いては、立法部の印度人及び非任命議員は共に政府の必要とする需要品の購買は出来るだけ全部將來印度内に於て行ふべく、入札も印度内に於てし且つルビー貨に於て行はるべしと主張し、或る範圍迄は印度政府も此政策に同意した。改正された需要品購入規則では、デリー、又はシムラに於ける新設の印度需要品省に對し印度内に持つて居る在庫品又は運送途上の物品中より購入するに當り、權限を擴張することとなつて居る。又英國製造業者の印度支店又は其代理店から機械器具の購入を爲し得ることになつた。此新設印度需要品省が迅速に活躍すべきこと、輸入品に關する限り、購買勢力の中心がロンドンを去つて印度に移さるべきことは疑ふの余地なきが如く思はれる。

印度の財
政状態

戦争の初期迄には印度の債券の全部は鐵道及び灌溉事業に投資されたもので生産的であつたが、其収益は借金の利子を拂つて餘りあるものであつた。(此外に若干非生産的の負債もあつたが

此利子をも前記の生産的事業の収益で拂つた。不幸にして最近十年間は此好結果を維持することは出来なくなつた。政治革新に伴つた行政制度變革の重要な結果の一は中央の財政と地方の財政を根本的に分離した事にあつた。印度では政府の収入の大部分は直接税から引出されたもので無く、土地、關稅、亞片、鐵道、森林、灌漑等の財源から引出したものである。印度が主として農業國である自然の結果として此國の収入は常に天候の順不順で大影響を蒙るを免れ難い。印度の財政状態は戦争で減茶減茶に攪亂されたのだが、此攪亂の結果として、印度の得意先の購買力が減少すると共に、印度の購買力も從て減少した。而して貿易の減少が財源に重大な影響を齎した。且つ物價の暴騰は行政費を増加し、同時に戦時中怠つて居た鐵道其他の改良事業の爲めに大なる經費を捻出する必要に迫らしめた。戦後毎年豫算編成に當つて財源の不足は關稅及び所得税の率を比較的過重ならしめる迄に増税を餘儀なくした。其結果インチケーブ卿を會長とする財政緊縮委員會の勸告に基いて歳出の大節約は斷行され、一九一七—一八年以來出来なかつた豫算の辻褄は一九二二—二四年度に至つて初めて合はされた。

保護政策の傾向

憲法政治に對する要求の一條件は、印度に關稅政策の自治權を與へて、保護關稅率を実施すべしと云ふにあつたが、此結果印度關稅委員會の設立となり一九二三年に印度政府が差別的保護の

政策の承認となつた。而して印度關稅委員會が印度に於ける製鋼業の保護を擴張する問題を或る制限の下に研究する爲めに設立され、次て此政策が實行されたことは前述の通りである。關稅局は印度内で經濟的に製造することの出来ない物品に對し、稅率を増加することには賛成出来ぬことを明確にし、更に進んで關稅局が勸告せんとする保護の程度は印度で製造され得ると思考する生産費と、同種類の輸入品の普通状態の生産費との差額を超過しては不可である點を明白に陳述する所があつたが、ボンベイを中心とする印度の商權と印度の政黨との握手は將來益々保護熱を高める傾向を有つて居る。

關稅局の勸告案を實施し、印度に於ける製鋼業の庇護獎勵法を講ずる法案は一九二四年五月に立法部の臨時會期に提出され、多少の修正の後通過し、六月十三日に實施された。鐵及鋼の保護は英國の製造業者に大關係ある事柄で無論、此種の物品の印度への輸入には惡影響を及ぼすべく、關稅局は一九二六—二七年度此惡影響を蒙る種類の鐵及び鋼の輸入は五八一、〇〇〇噸から三六三、〇〇〇噸に減少すべく、印度の生産額は四六、〇〇〇噸から二六四、〇〇〇噸に増加すべしと計算して居る。

綿織物に對する保護關稅率の實施が我輸出貿易に何の程度の打撃を與へるかは將來に徴するの

外はなし。

- (註一) 本章は Knowles' Economic Development of the Overseas Empire に據る所多し。
- (註二) Committee on Industry and Trade's Survey of Overseas Markets, 1925 第二七〇頁
- (註三) Indian Year Book 1923 第二九四頁に據ると世界から印度に流入した金銀の高は流出したのを差引き次の如くである。

一八八八—一九〇九年に終る五箇年間の毎年平均	二、二九七、〇〇〇磅
一九〇三—一九〇四年 同	一、五四九、〇〇〇
一九〇三—一九〇四年 同	四、一二〇、〇〇〇
一九〇八—一九〇九年 同	六、二二三、〇〇〇

而して一八五七年と一九〇七年間に印度が世界の金銀を吸収した高は六十三億三百萬ルピーであつて、此高の一部は裝飾用として使用され、他は地中其他に死蔵されてる筈である。若し印度が此金銀を吸収することが無かつたならば、世界は正貨の豊富な爲めに、物價騰貴に困しんだに相違ないと學者は主張して居る。

- (註四) East India (Progress and Condition) [Statement exhibiting the Moral and Material Progress and Condition of India] 1923—24 政府出版二三一一號参照
- (註五) 前掲参照
- (註六) Sir Edgar Speyer 寄書一九一一年五月廿八日「タイムズ」紙掲載
- (註七) 此項 Economic Development of Overseas Empire 中引用されたステータチスト誌主筆 Sir

George Paish 講演

- (註八) 一九二六年に於けるカルカッタ市の生産率は千人に付て一九・二で、死亡率は三二・七、幼兒死亡率は三〇・八であるから、生後一年間内に三分の一は死んだことになる。保健課役員の意見によれば、貧困、無智、幼年結婚、後室制度が相俟つて母親の健康を害するもので、幼女、幼い婦人間に肺病最も多きは幼年結婚が原因を爲して居る。十五歳二十歳間の女子の肺病に因る死亡数は男子の五倍に達して居る。(雑誌 The New Statesman 一九二七年十月一日號所載)
- (註九) Sir Valentine Chirol: India Old and New 第十三章 Economic Factors 参照

昭和三年一月二十四日印刷
昭和三年一月三十日發行

英 帝 國

定價壹圓七拾錢

送料拾錢

著 者 島 谷 亮 輔

發行人 奧 山 清 治

東京市丸ノ内仲十三號館

印刷人 中 川 二 郎

東京市芝區今入町十番地

印刷所 研 文 社

東京市芝區今入町十番地

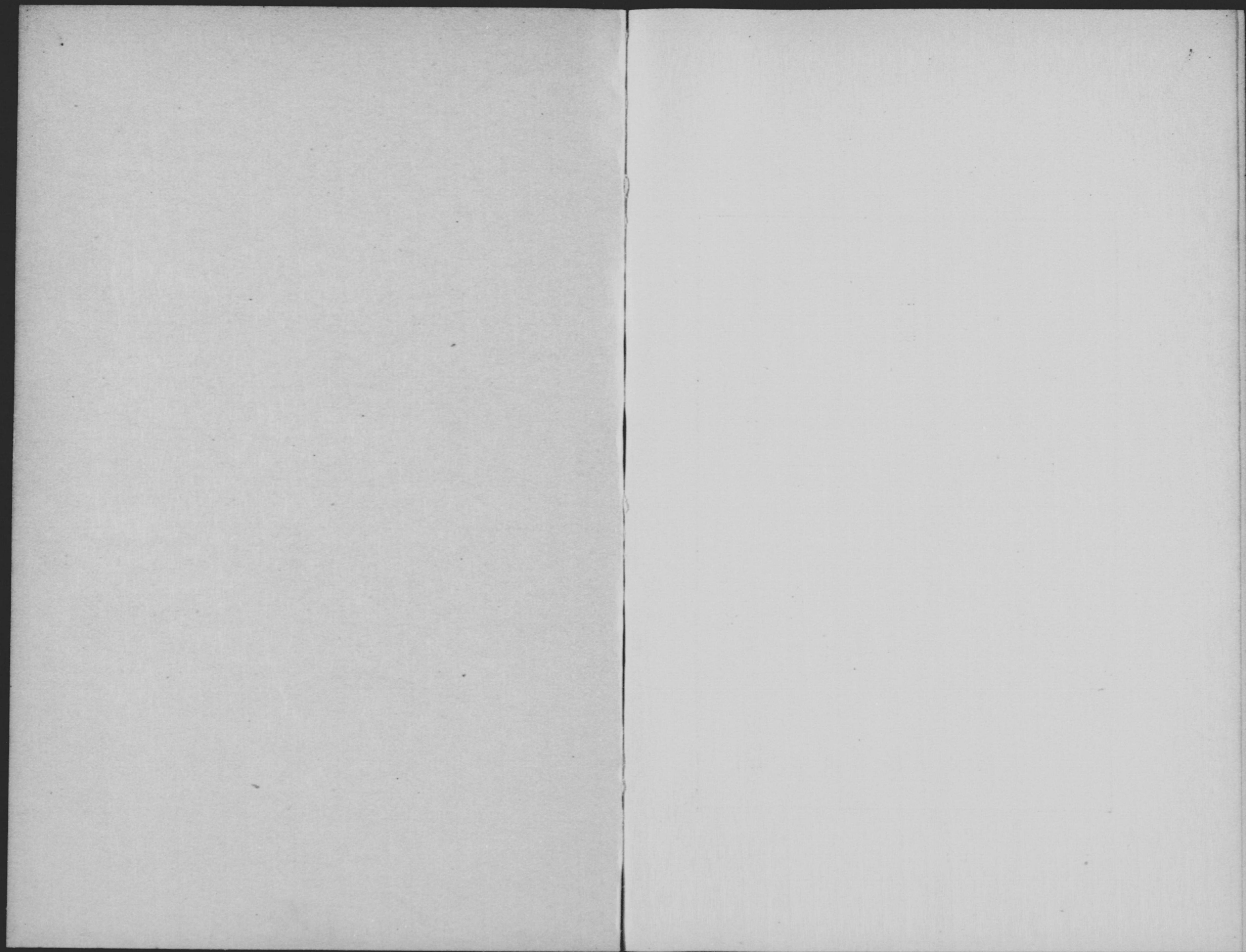
不 許
復 製

發 兌

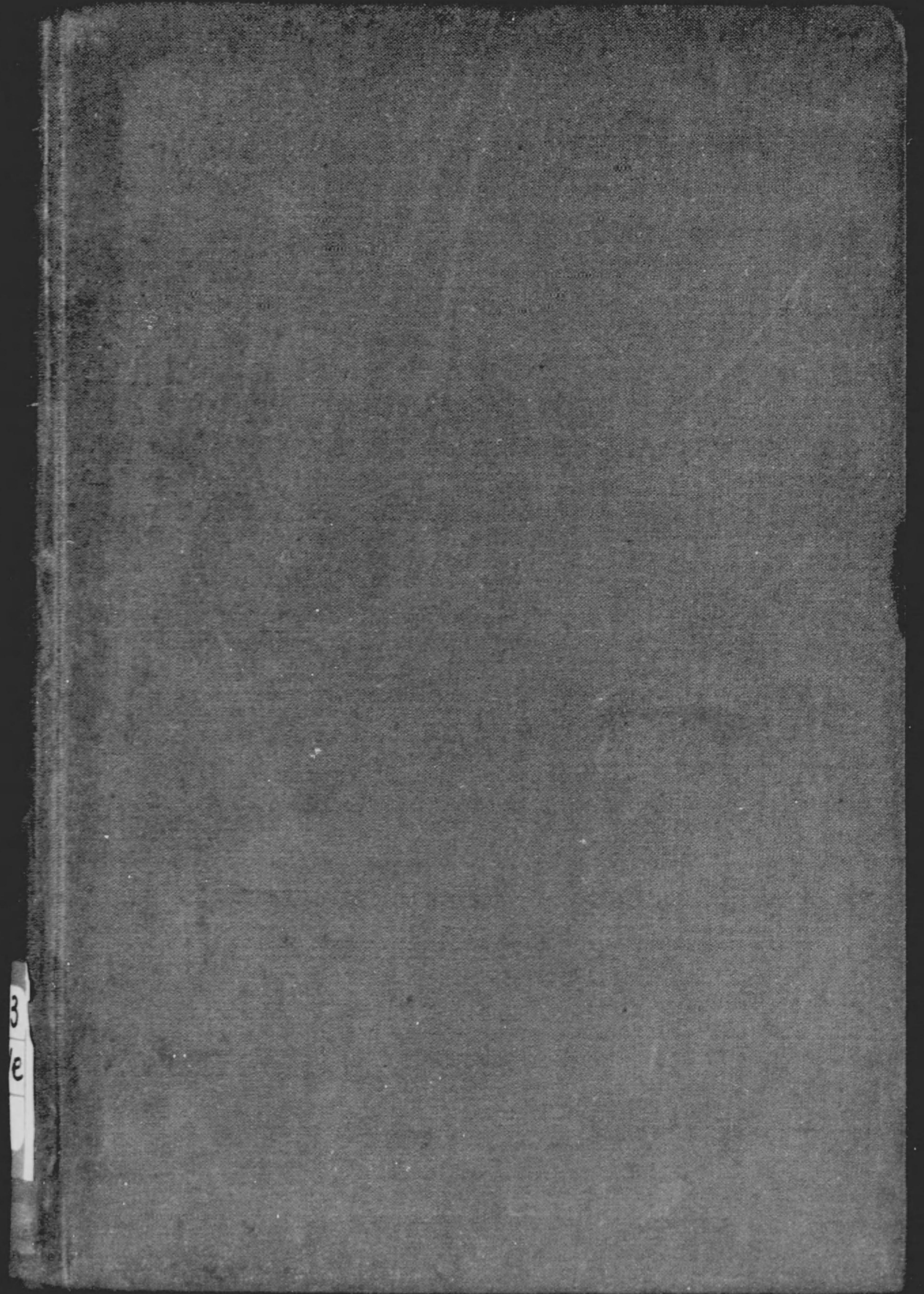
東京市丸ノ内仲十三號館

社 團 法 人 國 際 聯 盟 協 會

振替東京五五一八三
電話丸ノ内(23)四六六四



311



3
e